

# 2027年国際園芸博覧会

## 修正届出書添付資料の概要

令和5年3月7日

公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会

# 本日の説明内容

- 1 対象事業実施区域の修正
- 2 新事業計画の概要
- 3 対象事業の内容
- 4 方法市長意見の内容及び事業者の見解
- 5 新事業計画における環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定
- 6 新事業計画における環境影響項目に係る調査、予測  
及び評価の手法の選択
- 7 方法書対象地域
- 8 図書の見覧及び意見書の提出

# 1 対象事業実施区域の修正

## 横浜市環境影響評価条例第39条に基づく修正

### 【修正の概要①】

最新の事業計画を記載し、反映

### 【方法書時点】

横浜国際園芸博覧会具体化検討会報告書(令和3年5月)

### 【今回修正】

2027年国際園芸博覧会基本計画(令和5年1月)

## 横浜市環境影響評価条例第39条に基づく修正

### 【修正の概要②】

対象事業実施区域の拡張

約100.0ヘクタール ⇒ 約150.0ヘクタール

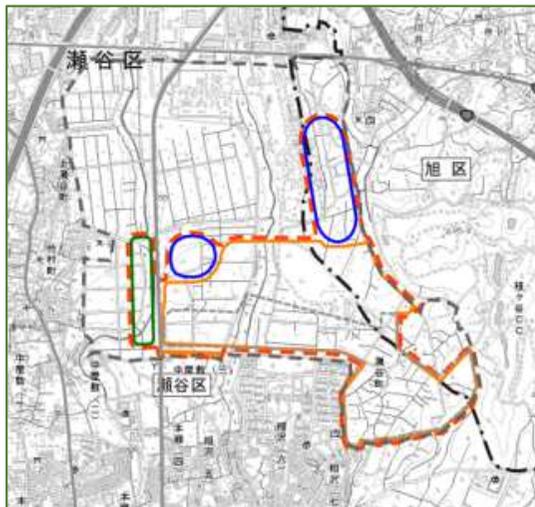
### 【方法書時点】

「駐車場区域」、「バスターミナル」

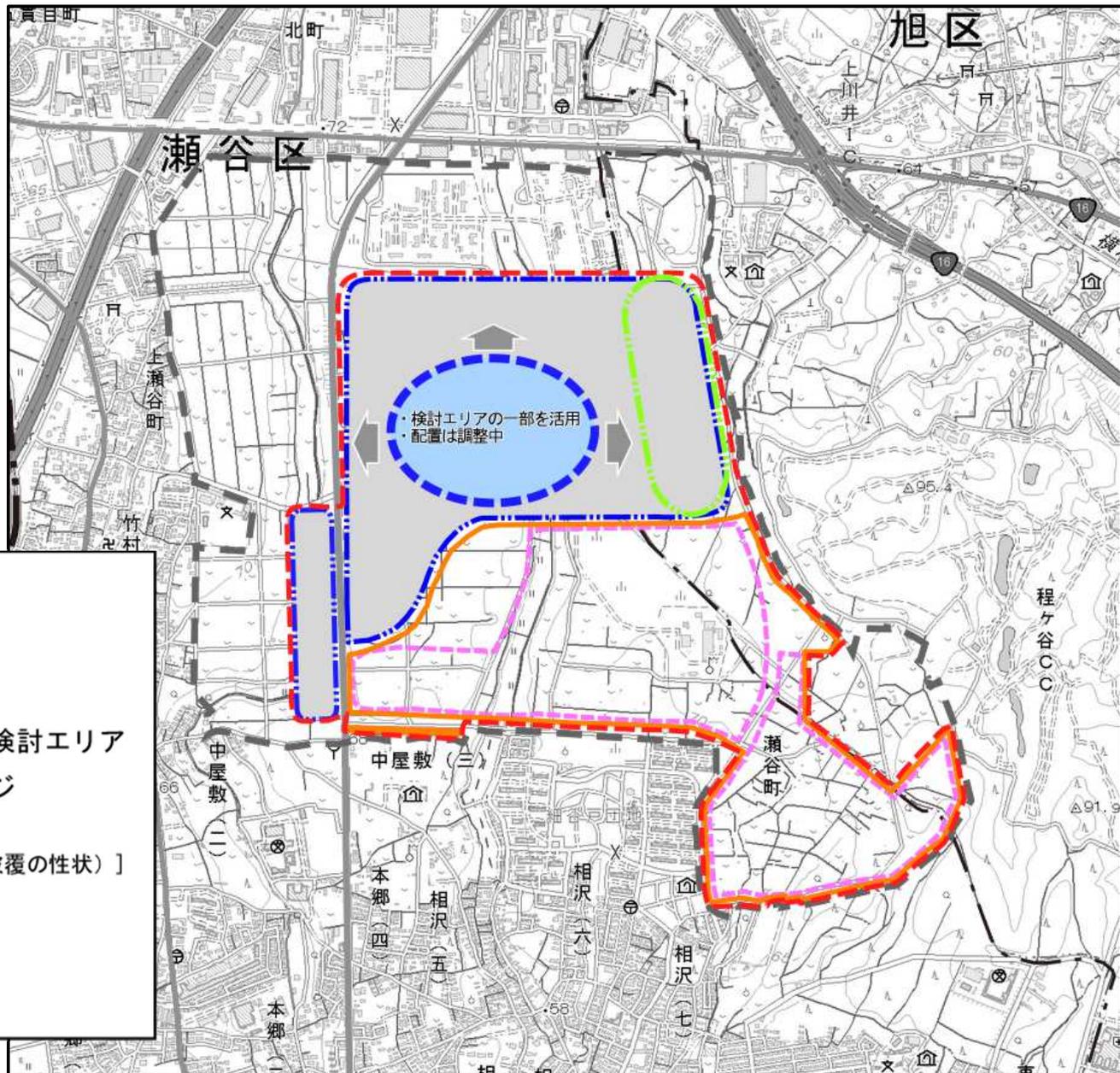
### 【今回修正】

- ・駐車台数を十分に確保するとともに、円滑な輸送計画となるように区域を見直し、「駐車場・バスターミナル等の設置検討エリア」に再編
- ・上記再編に伴い、対象事業実施区域を拡張

# 駐車場・バスターミナル等の設置検討エリアのイメージ

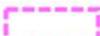
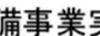


方法書の対象事業実施区域



修正後の対象事業実施区域

## 凡例

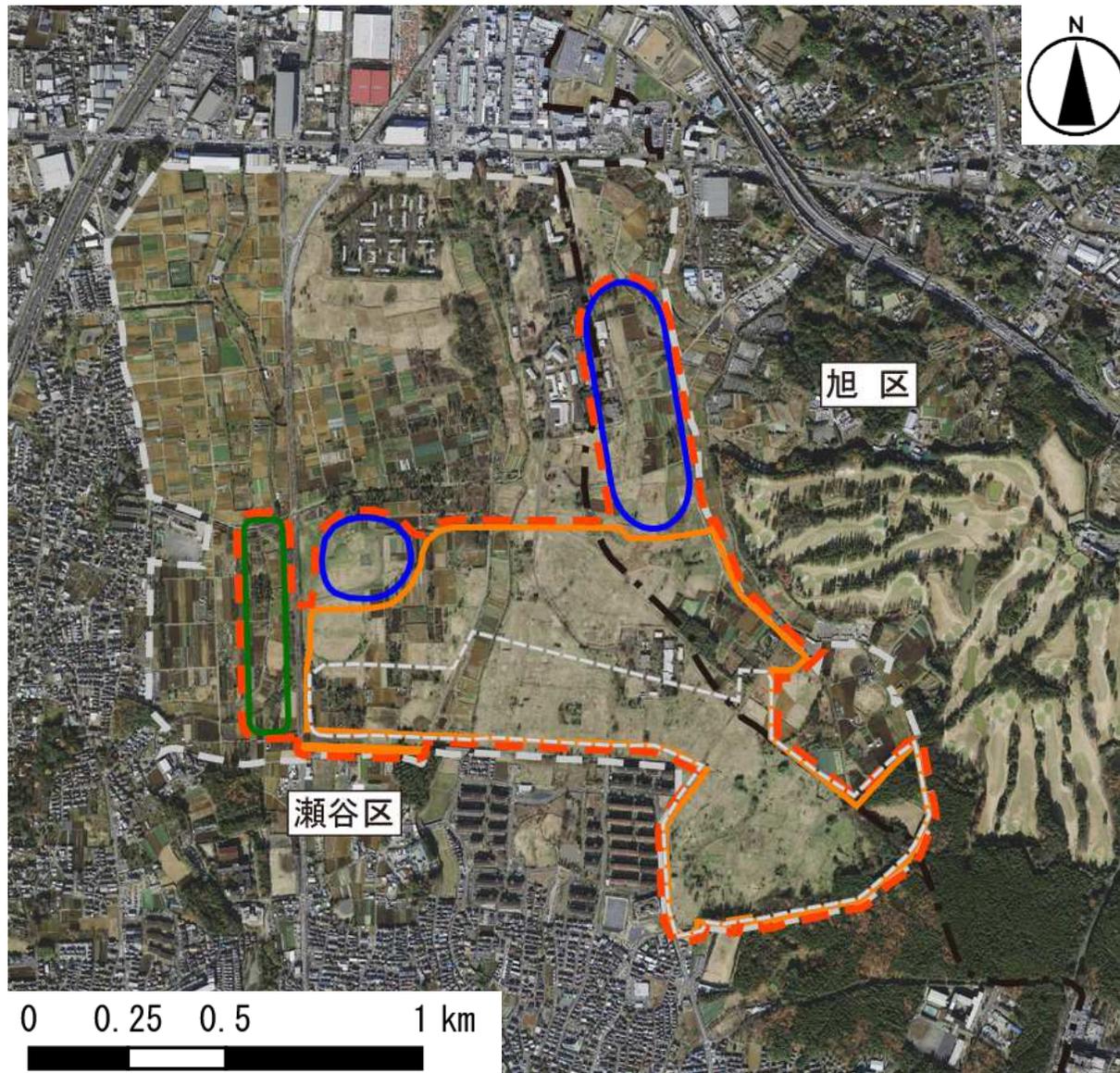
-  対象事業実施区域
-  会場区域
-  駐車場・バスターミナル等の設置検討エリア
-  駐車場の配置・規模の検討イメージ
-  源流部の集水域  
[周辺環境への配慮(駐車場の形状、土地被覆の性状)]
-  土地区画整理事業実施区域
-  公園整備事業実施区域
-  都県界
-  市界
-  区界

## 2 新事業計画の概要

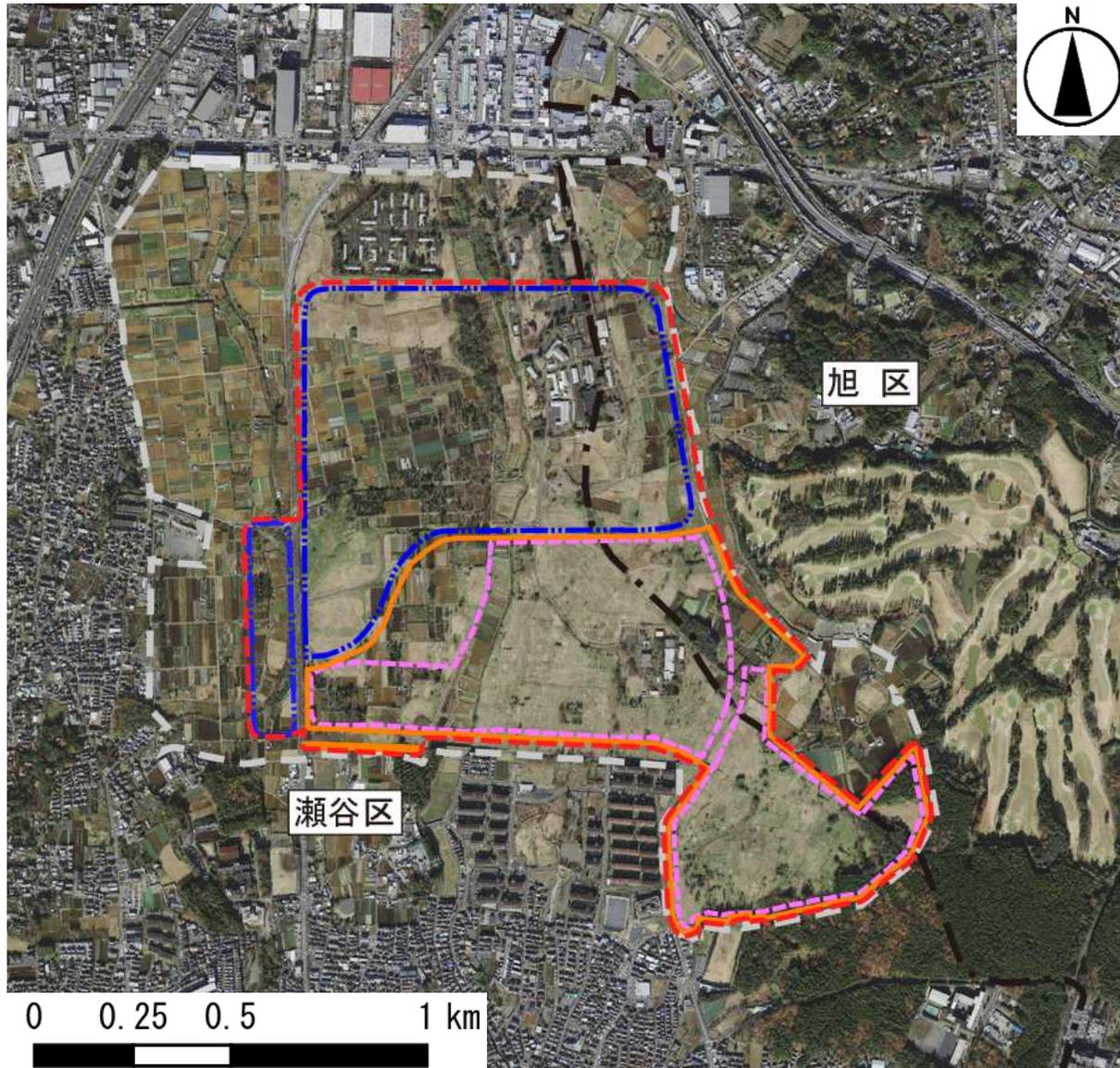
事業者の 氏名 及び住所	名称	公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会
	代表者の氏名	事務総長・代表理事 河村 正人
	主たる事務所の所在地	横浜市中区住吉町1丁目13番地 松村ビル本館
対象事業の名称		2027年国際園芸博覧会
対象事業の種類、 規模		開発行為に係る事業（第1分類事業） 対象事業実施区域の面積：約150.0ha <sup>注1</sup> （会場区域 約80.0ha、駐車場・バスターミナル等の設置検討エリア 約70.0ha <sup>注2</sup> ）
対象事業実施区域		横浜市旭区上川井町、瀬谷区瀬谷町
対象事業に係る許可等の内容		【建築物の確認】 建築基準法第6条第1項
環境影響評価の受託者		株式会社 プレック研究所 代表取締役社長 杉尾 大地 東京都千代田区麴町3-7-6

注1：環状4号線などの道路部分を除く。

注2：駐車場及びバスターミナル等は、今後、このエリア内において、配置等を検討していきます。



-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  公園整備事業実施区域
-  会場区域
-  駐車場区域
-  バスターミナル
-  都県界
-  市界
-  区界



-  対象事業実施区域
-  会場区域
-  駐車場・バスターミナル等の設置検討エリア
-  土地区画整理事業実施区域
-  公園整備事業実施区域
-  都県界
-  市界
-  区界

# 3 対象事業の内容

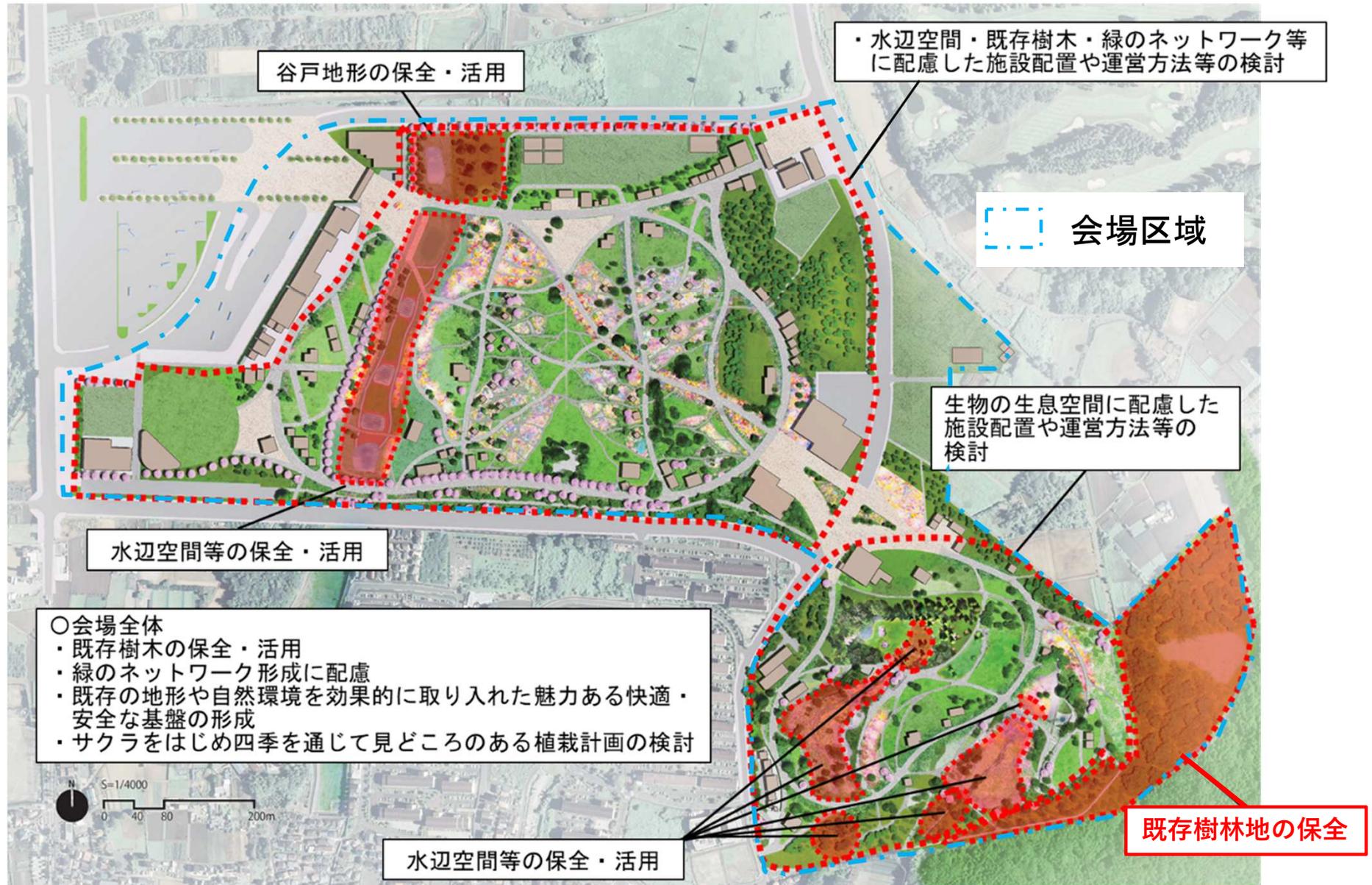
## ■ 方法書における会場配置計画図



## ■新事業計画における施設配置図



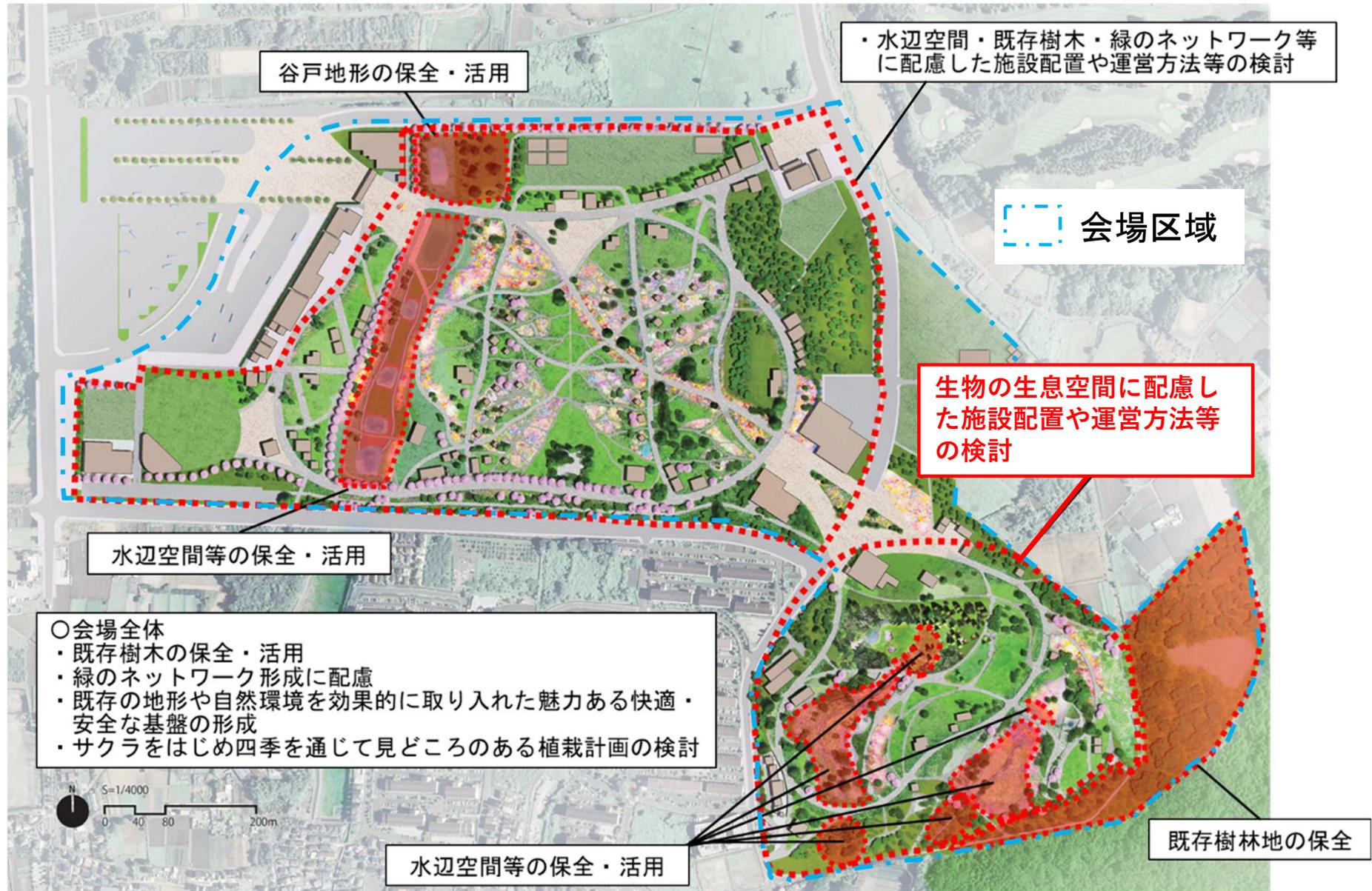
## ■新事業計画における施設配置図(主な配慮事項)



## ■新事業計画における施設配置図(主な配慮事項)



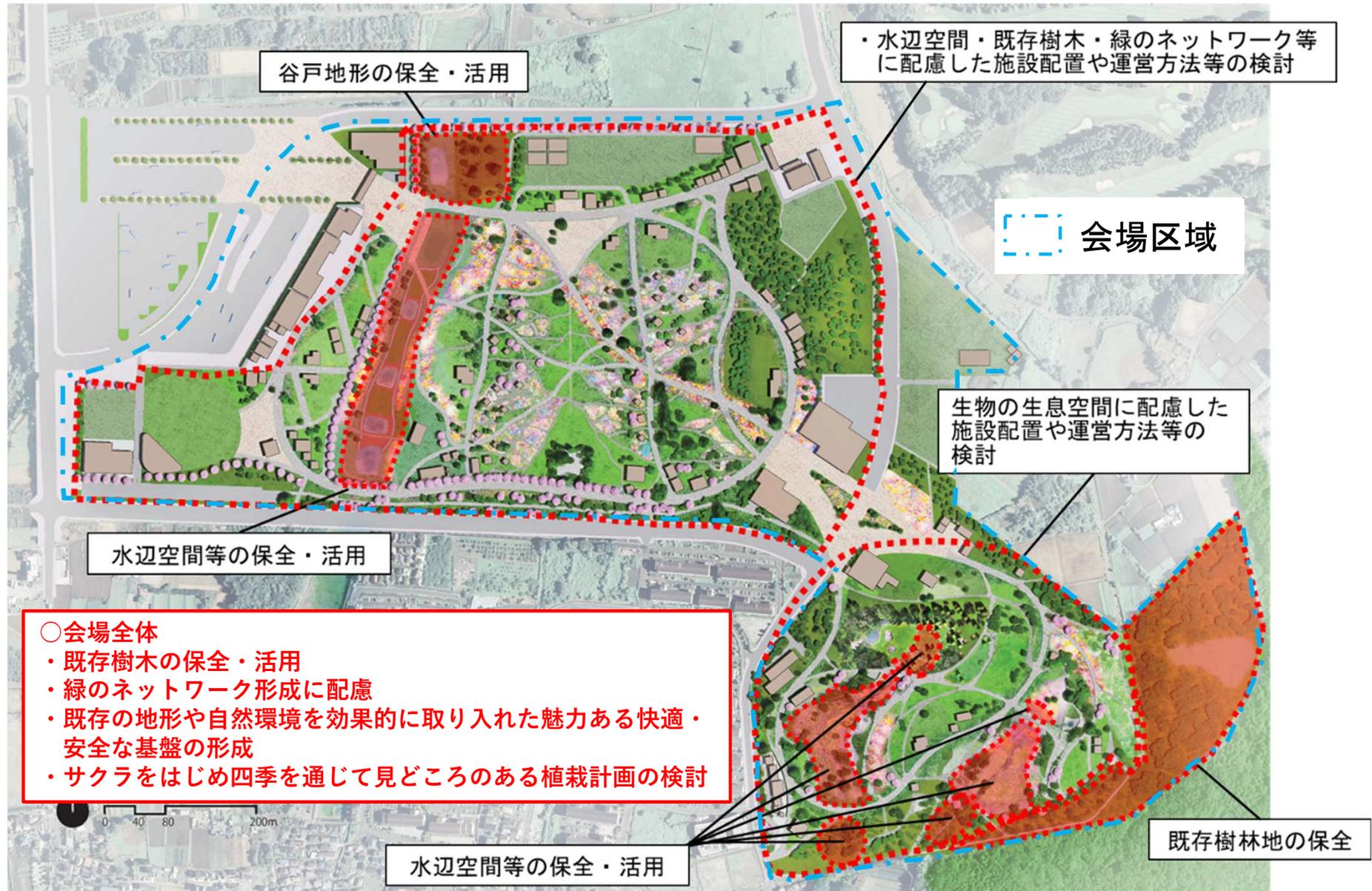
## ■新事業計画における施設配置図(主な配慮事項)



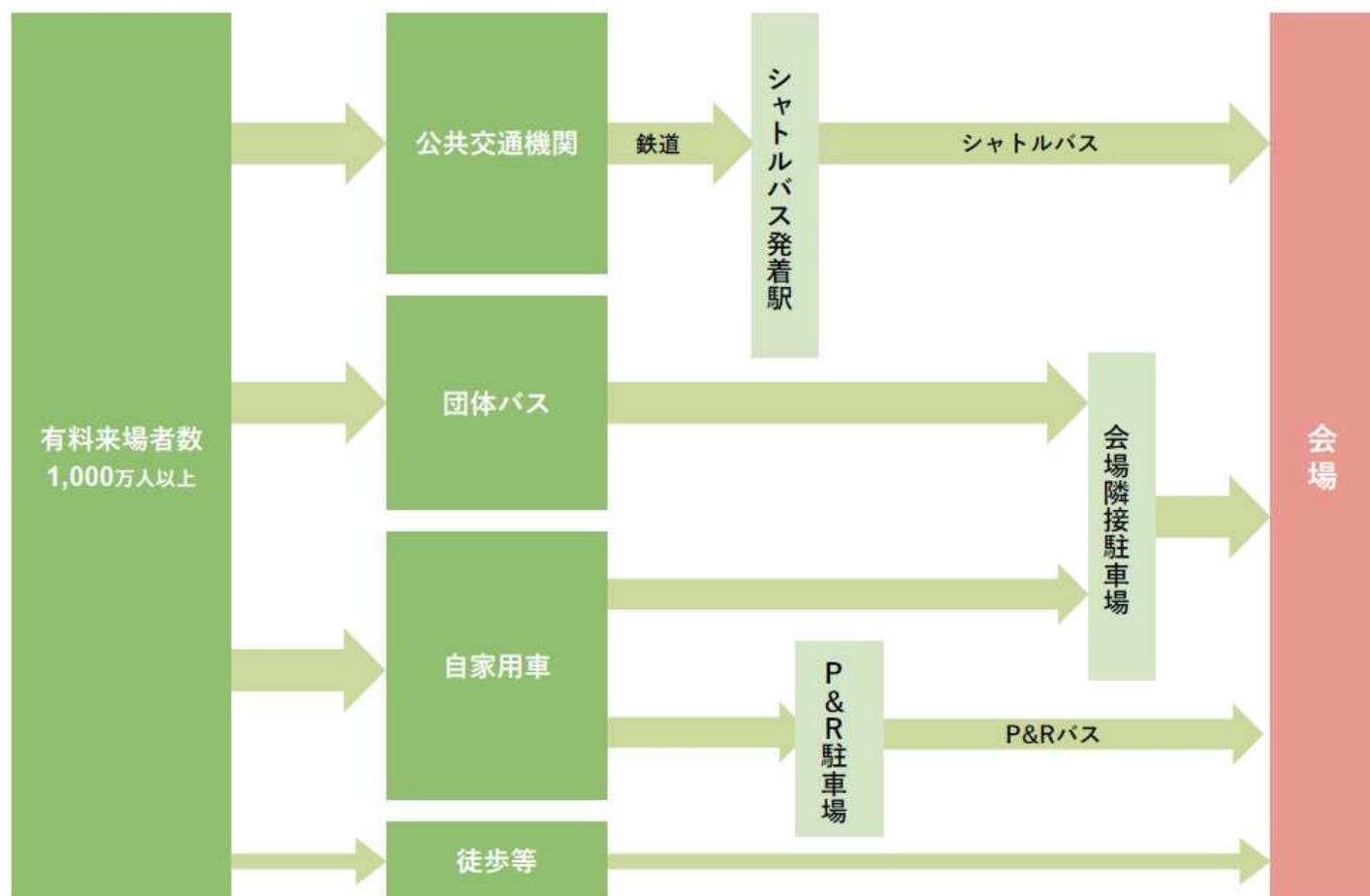
## ■新事業計画における施設配置図(主な配慮事項)



## ■新事業計画における施設配置図(主な配慮事項)

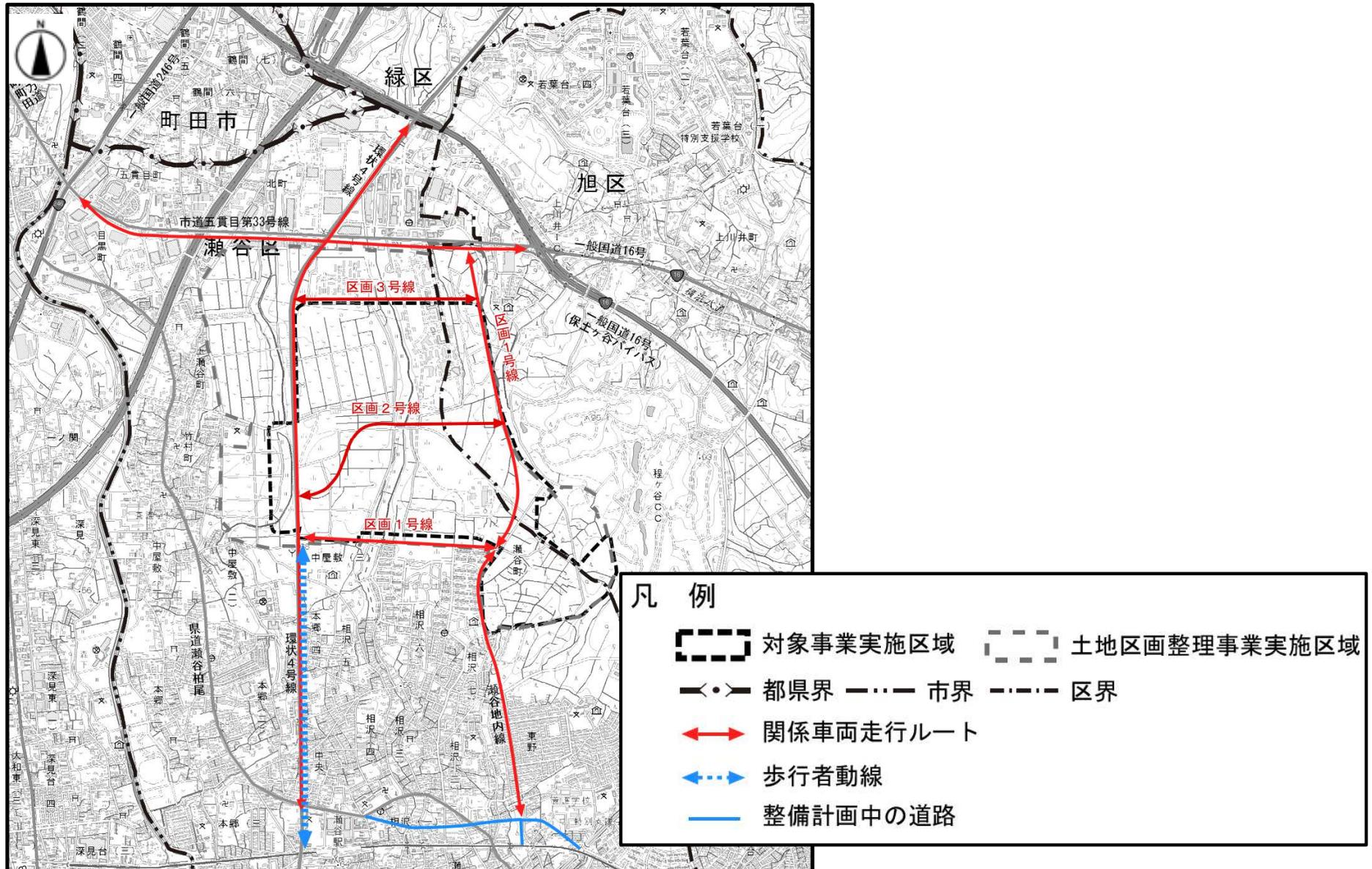


- ・ 来場者の動向にあわせ、既存の交通インフラの最大活用や、快適で円滑なアクセスルートを計画します。
- ・ 会場周辺の交通特性を踏まえ、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。



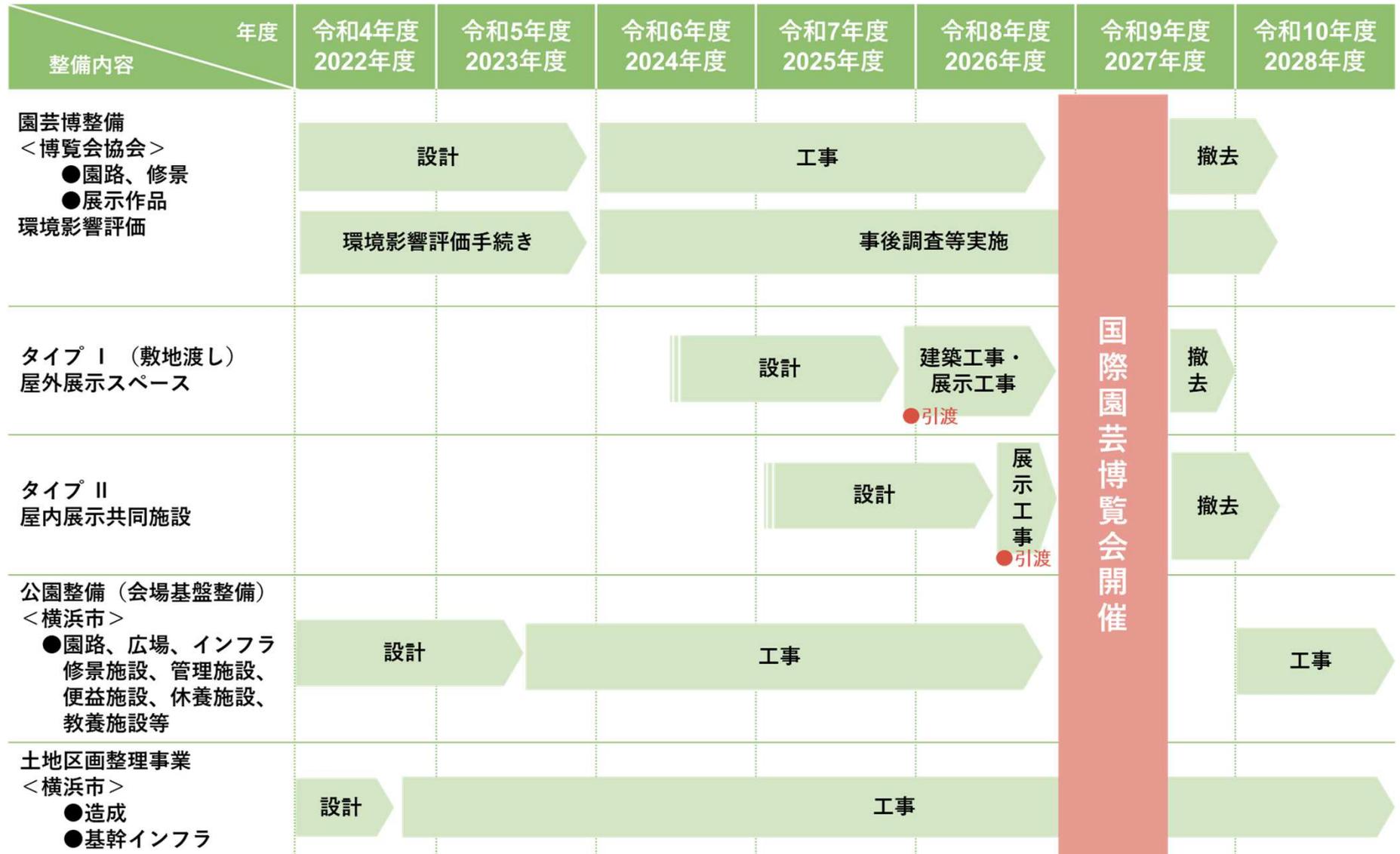


## ■ 車両・歩行者動線計画



注：「関係車両」とは、本博覧会開催中の来場車両及び資機材等搬入車両をいいます。

## ■ 会場整備スケジュール



## ■ 工事概要等

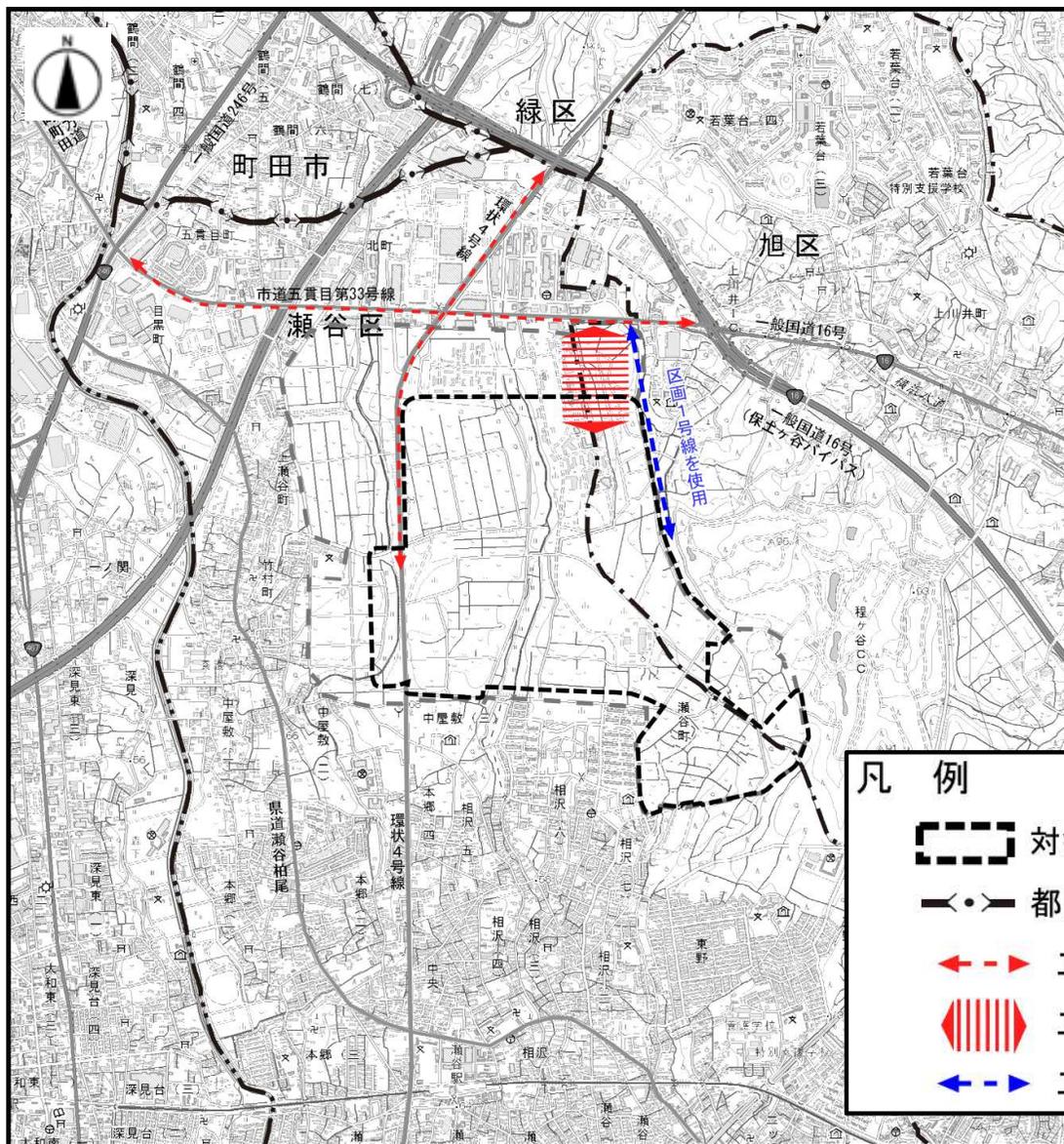
- ・対象事業実施区域内の土地区画整理事業による既設建築物、既設工作物の撤去工事や造成工事、公園整備事業と共通する基盤整備等との整合を図りながら、順次工事を開始します。
- ・閉会後は、公園整備事業の二次整備工事に先立ち、仮施設等の撤去・復旧工事を行います。

工種種別	主な工事内容	主要建設機械
基盤整備工	基盤整備	バックホウ、ブルドーザー、タイヤローラ など
植栽工	移植、植栽	バックホウ、クレーン、ダンプトラック など
設備工	給排水、電気	バックホウ、クレーン、振動ローラ、タンパ、トラッククレーン、ダンプトラック
園路広場工	舗装	バックホウ、ホイールローダー、ブルドーザー、ロードローラー、振動ローラ、タンパ など
施設整備工	展示・催事施設、サービス施設、運営管理施設、修景施設	バックホウ、クレーン、トラッククレーン、ダンプトラック、コンクリートポンプ車、トレーラー
出展整備工	出展庭園	バックホウ、クレーン、振動ローラ、タンパ、トラッククレーン、ダンプトラック
撤去・復旧工	出展庭園撤去、仮施設撤去、植栽撤去、移植、植栽	バックホウ、クレーン、振動ローラ、タンパ、ダンプトラック、大型ブレーカー など

## ■ 工程表

工種種別	令和							
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
着工準備期間	■						2027年国際園芸博覧会	
準備工				■				
基盤整備工				■				
植栽工				■				
設備工				■				
園路広場工					■			
施設整備工				■				
出展整備工				■				
撤去・復旧工								■

## ■ 工事用車両動線



凡 例			
	対象事業実施区域		土地区画整理事業実施区域
	都県界		市界
	区界		
	工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)		
	工事用車両の専用出入口 (工事中) <sup>※</sup>		
	工事用車両の走行ルート (撤去中)		

※ 工事用車両の専用出入口の詳細な位置・線形については、現時点で未定です。

## 4 方法市長意見の内容 及び事業者の見解

	意見の内容	事業者の見解
(1)	<p>方法書提出後に基本計画案を公表し、今後基本計画を取りまとめる予定であることから、準備書には最新の会場配置計画等を示すとともに、駐車場の形状や土地被覆の性状など具体的な整備内容を示してください。</p>	<p>令和5年1月に公表した「2027年国際園芸博覧会基本計画」で示した、最新の会場配置計画等を本資料に記載するとともに、準備書においてはその時点で最新の会場配置計画等を示します。</p> <p>また、駐車場の位置、面積、形状や土地被覆の性状など具体的な整備内容については準備書に記載します。</p>
(2)	<p>本事業における整備に当たっては旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業と（仮称）旧上瀬谷通信施設公園整備事業（以下「公園整備事業」という。）が密接に関連することから、それらの事業と整合を図り、各事業の整備内容や博覧会の開催後に撤去する施設と公園整備事業に継承する施設が何かを具体的に分かりやすく準備書に記載してください。</p>	<p>本事業における整備に当たっては、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業及び（仮称）旧上瀬谷通信施設公園整備事業と整合を図り、各事業の整備内容や博覧会の開催後に撤去する施設と公園整備事業に継承する施設について、具体的に分かりやすく準備書に記載します。</p>

意見の内容		事業者の見解
(3)	交通分担率やシャトルバス発着駅、パークアンドライド駐車場の場所、関係車両の走行経路、方向別交通量など、輸送計画の詳細を準備書に記載してください。	交通分担率やシャトルバス発着駅、パークアンドライド駐車場の場所、関係車両の走行経路、方向別交通量などを、準備書に記載します。 なお、シャトルバス発着駅については、本資料に基本的な考え方を記載しました。（第1章 p.1-49 図 2-9）
(4)	SDGs目標期間内の開催でもあり、環境への取組を国内外へ発信する場ともなることから、国産材の活用やZEB認証、ZEB-Ready認証取得などの取組も検討し、より一層の環境配慮に努めてください。 なお、目標としている電力を100%再生可能エネルギーとする具体的な内容を準備書に記載してください。	国産材の活用やZEB認証取得などの取組を検討し、より一層の環境配慮に努めます。 また、目標としている電力を100%再生可能エネルギーとする具体的な内容を準備書に記載します。

意見の内容		事業者の見解
(1) 開 催 中	ア 温 室 効 果 ガ ス	水の使用に伴う温室効果ガス排出量を参考として算定するとともに、積極的な雨水利用に努めます。（第5章p.5-7）
	イ 生 物 多 様 性	北東側だけでなく駐車場・バスターミナル等設置検討エリアにおける大規模な駐車場等の設置に伴う動物、植物、生態系に及ぼす影響を予測、評価する際は、駐車場の形状や土地被覆の性状を踏まえて行います。

意見の内容		事業者の見解
(1) 開 催 中	ウ 水 循 環	<p>北東の大規模な駐車場区域が堀谷戸川上流部の集水域に位置し、駐車場の土地被覆の変化による河川の流量への影響が想定されることから、環境影響評価項目として選定してください。</p> <p>駐車場・バスターミナル等設置検討エリアにおける大規模な駐車場等の設置に伴う堀谷戸川上流部の集水域の土地被覆の変化を考慮し、開催中の環境影響評価項目として「水循環（河川の流量）」を選定しました。 (第4章p.4-5、4-13、第5章p.5-43、5-45)</p>

意見の内容		事業者の見解	
(1) 開 催 中	工 地 域 社 会	<p>(ア) パークアンドライドは交通集中の回避に寄与する一方、パークアンドライド駐車場周辺における交通混雑の発生が懸念されることから、交通分担率等を踏まえた上で、周辺の交通混雑について調査、予測、評価してください。</p>	<p>パークアンドライド駐車場周辺の交通混雑については、周辺の交通状況を踏まえた上で、調査、予測、評価します。 (第5章p. 5-77)</p>
		<p>(イ) 鉄道からシャトルバスへの乗換えを行う結節点では、輸送力の違いによる来場者の滞留が想定されることから、周辺住民等の駅利用への影響について準備書に記載してください。</p>	<p>鉄道からシャトルバスへの乗換えを行う結節点における周辺住民等の駅利用への影響について、準備書に記載します。 (第5章p. 5-77) なお、シャトルバス発着駅については、本資料に基本的な考え方を記載しました。 (第1章p. 1-49 図 2-9)</p>

意見の内容		事業者の見解
(1) 開 催 中	工 地 域 社 会	<p>(ウ) 来場者がバスターミナルから環状4号線を横断する方法及び会場区域内を縦断する区域内道路1号を横断する方法について、準備書に記載してください。 なお、横断方法が平面の場合には歩行者の安全上の配慮について検討するとともに、交通混雑等の予測、評価においても考慮してください。</p>
		<p>(I) 博覧会の開催期間中は、対象事業実施区域周辺の道路において信号設定等の交通制御に大きな変更が想定されることから、それらを考慮して予測、評価してください。</p>

意見の内容		事業者の見解
(1) 開催中	才 景 観  相沢川の保全対象種の生息環境や北東の駐車場区域が把握できる調査地点を追加し、市民の森だけでなくその他の樹林や農地等を構成要素とする景観の変化について予測、評価してください。	対象事業実施区域の拡張を踏まえ、相沢川の保全対象種の生息環境や、方法書時点の「北東の駐車場区域」を含む駐車場・バスターミナル等設置検討エリアが把握できる調査地点を追加し、市民の森だけでなくその他の樹林や農地等を構成要素とする景観の変化について予測、評価します。(第5章p.5-3、5-83~5-87)

## 5 新事業計画における環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定

区分	環境影響要因	要因の概要
工事中	建設機械の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 建物の建築や施設の整備等の工事のために、建設機械が対象事業実施区域内で稼働します。</li> </ul>
	工事用車両の走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 資機材の運搬、廃棄物等の搬出及び施設の管理等を行う車両が走行します。</li> </ul>
	建設行為等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 建物の建築や施設の整備等の工事を実施します。</li> <li>➤ 庭園等の整備に伴い、外来植物を含む植物の搬入・植栽・管理を実施します。</li> </ul>

区分	環境影響要因	要因の概要
開催中	会場施設等の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 展示・サービス施設、花壇、庭園、駐車場及びバスターミナル等の施設が存在します。</li> <li>➤ 土地区画整理事業において保全対象種の生息環境として創出された水辺空間等が存在します。</li> </ul>
	施設の供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 来場者及び施設管理関係者等が施設を利用します。</li> <li>➤ 会場内で様々な行催事等を行います。</li> <li>➤ 施設の管理・運営作業等を行います。</li> </ul>
	関係車両の走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 来場者の自家用車、シャトルバス及び団体バス等の車両が走行します。</li> <li>➤ 資機材の運搬、廃棄物等の搬出及び施設の管理等を行う車両が走行します。</li> </ul>
	外来植物を含む植栽等の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 外来植物を含む植物の搬入・植栽・管理を行います。</li> </ul>

区分	環境影響要因	要因の概要
撤去中	建設機械の稼働	➤ 仮施設等等の解体工事のために建設機械が稼働します。
	工事用車両の走行	➤ 撤去物や廃棄物の搬出のため車両が走行します。
	仮施設等等の撤去	➤ 仮施設等等の解体・撤去を行います。

# 環境影響評価項目の選定

修正届出書添付資料 p.4-5

環境影響要因 環境影響評価項目		工事中			開催中			撤去中			
		建設機械の稼働	工事用車両の走行	建設行為等の実施	会場施設等の存在	施設の供用	関係車両の走行	外来植物を含む植栽等の管理	建設機械の稼働	工事用車両の走行	仮設施設等の撤去
温室効果ガス		○	○	○	－	○	○	○	○	○	－
生物多様性	動物	－	－	○	○	○	－	○	－	－	○
	植物	－	－	○	○	○	－	○	－	－	○
	生態系	－	－	○	○	○	－	○	－	－	○
水循環	湧水の流量	－	－	○	○	－	－	－	－	－	－
	河川の流量	－	－	－	○	－	－	○	－	－	－
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	－	－	○	－	○	－	○	－	－	○
	産業廃棄物	－	－	○	－	○	－	○	－	－	○
大気汚染		○	○	－	－	－	○	－	○	○	－
騒音		○	○	－	－	○	○	－	○	○	－
振動		○	○	－	－	－	○	－	○	○	－
地域社会	交通混雑	－	○	－	－	－	○	－	－	○	－
	歩行者の安全	－	○	－	－	－	○	－	－	○	－
景観		－	－	－	○	－	－	－	－	－	－
触れ合い活動の場		－	○	－	－	○	○	－	－	○	－

## 6 新事業計画における環境影響評価項目に係る調査、予測及び評価の手法の選択

# 関連事業の調査結果の活用

修正届出書添付資料 p.5-3

- 土地区画整理事業及び公園整備事業において実施された現地調査の結果を引用
- 景観については、上記調査結果の引用に加えて、本事業の実施による近景域の眺望景観の変化を把握できる地点において現地調査を実施

	環境影響評価項目	現地調査	本事業で調査を実施	調査結果を引用する関連事業	
				土地区画整理事業	公園整備事業
①	温室効果ガス	—	—	—	—
②	生物多様性（動物、植物、生態系）	○	—	○	○
③	水循環 （湧水の流量、河川の流量）	○	—	○	○
④	廃棄物・建設発生土	—	—	—	—
⑤	大気質	○	—	○	—
⑥	騒音	○	—	○	—
⑦	振動	○	—	○	—
⑧	地域社会 （交通混雑、歩行者の安全）	○	—	○	—
⑨	景観	○	○	○	○
⑩	触れ合い活動の場	○	—	○	—

## ■調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
・ 温室効果ガスに係る 原単位の把握	資料	・ 「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等の既存文献や、各省庁等において公表されている値等を収集・整理
・ 排出抑制対策の 実施状況		・ 既存資料や横浜市ホームページから温室効果ガス排出抑制対策としての取組について収集・整理 ・ 横浜市により集計されている温室効果ガス排出量の推移についても整理

注：主な調査項目を記載

## ■予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働、 工事用車両の走行に 伴う二酸化炭素排出量	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間（または解 体撤去工事期間） 全体	「温室効果ガス排出量算定・報 告マニュアル」等により温室効 果ガスの排出量を算定
植物ストックヤード等 における植栽管理に 伴う二酸化炭素排出量	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	「温室効果ガス排出量算定・報 告マニュアル」等により温室効 果ガスの排出量を算定

## ■予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う二酸化炭素排出量	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により温室効果ガスの排出量を算定
施設の供用に伴う二酸化炭素排出量	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	開催期間のエネルギー使用量、 <u>再生可能エネルギーの活用の具体的な内容等を整理の上</u>
植物ストックヤード等における植栽管理に伴う二酸化炭素排出量	<p>【地域・地点】 会場区域</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により温室効果ガスの排出量を算定

注：開催中の水の使用に伴う温室効果ガス排出量についても、参考として算定します。

### ■ 調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
<p>動物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物相</li> <li>・ 生息環境の特性</li> <li>・ 注目すべき動物種及び生息地の状況</li> <li>・ 動物の生息環境からみた地域環境特性</li> </ul>	資料	<p>土地区画整理事業評価書において実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理</p> <p>a. 哺乳類 任意観察法、フィールドサイン法、トラップ法、無人撮影法及び夜間調査（コウモリ類） ・ 4季（夏季、秋季、冬季、春季）</p> <p>b. 鳥類 任意観察法、ラインセンサス法、定点観察法及び夜間調査（フクロウ類、夜行性鳥類） ・ 5季（夏季、秋季、冬季、春季、初夏季）</p> <p>c. 両生類及び爬虫類 任意観察法、任意採取法及び夜間調査 ・ 5季（夏季、秋季、早春季、春季、初夏季）</p>

注：主な調査項目を記載

### 調査手法

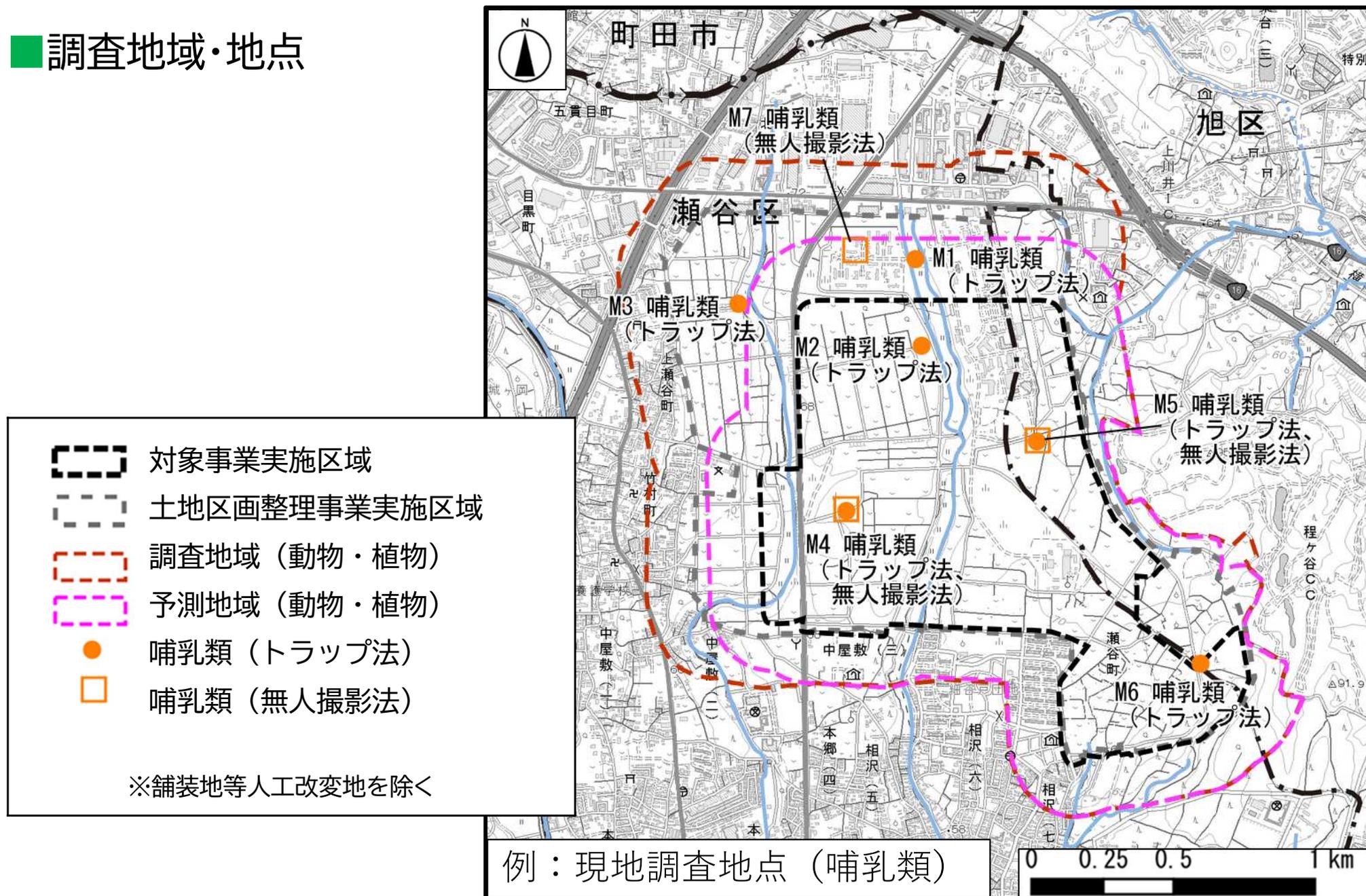
調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
<p>動物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物相</li> <li>生息環境の特性</li> <li>注目すべき動物種及び生息地の状況</li> <li>動物の生息環境からみた地域環境特性</li> </ul>	資料	<p>d. 昆虫類 任意観察法、任意採取法、ライトトラップ法、 バイトトラップ法、夜間調査、鳴声調査 ・ 3季（夏季、秋季、春季）</p> <p>e. クモ類 任意観察法及び任意採取法 ・ 3季（夏季、秋季、春季）</p> <p>f. 陸産貝類 任意観察法及び任意採取法 ・ 2季（冬季、初夏季）</p> <p>g. 魚類 任意観察法及び任意採取法 ・ 4季（夏季、秋季、冬季、春季）</p> <p>h. 底生動物 任意観察法、任意採取法及び定量調査 ・ 4季（夏季、秋季、冬季、春季）</p>

注：主な調査項目を記載

## ②-1 生物多样性(動物)

修正届出書添付資料 p.5-17

### 調査地域・地点



### ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>工事の実施（または仮設施設等の撤去）に伴う動物相の変化の内容及びその程度</p>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 工事期間（または撤去期間）全体</p>	<p>調査で把握した動物相及び生息環境の状況と<u>会場等の施工計画</u>（または仮設施設や<u>駐車場等の撤去に係る計画</u>）を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測</p>

## ②-1 生物多様性(動物)

修正届出書添付資料 p.5-13

### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>会場施設等の存在に伴う動物相の変化の内容及びその程度</p>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	<p>調査で把握した動物相及び生息環境の状況と会場等の施設計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測。<u>なお、動物に及ぼす影響を予測、評価する際は、駐車場・バスターミナル等設置検討エリアにおける駐車場の形状や土地被覆の性状を踏まえる。</u></p>
<p>施設の供用に伴う動物相の変化の内容及びその程度</p>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催事実実施時</p>	<p>調査で把握した動物相及び生息環境の状況と開催事実実施時の騒音発生源の音圧レベル、夜間照明の諸元をもとに、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測</p>

## ②-1 生物多様性(動物)

### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
外来植物を含む植栽等の管理に伴う動物相の変化の内容及びその程度	<b>【地域・地点】</b> 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲 (舗装地等人工改変地を除く) <b>【時期】</b> 開催期間全体	調査で把握した動物相及び生息環境の状況と植栽管理の計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測

### ■ 調査手法

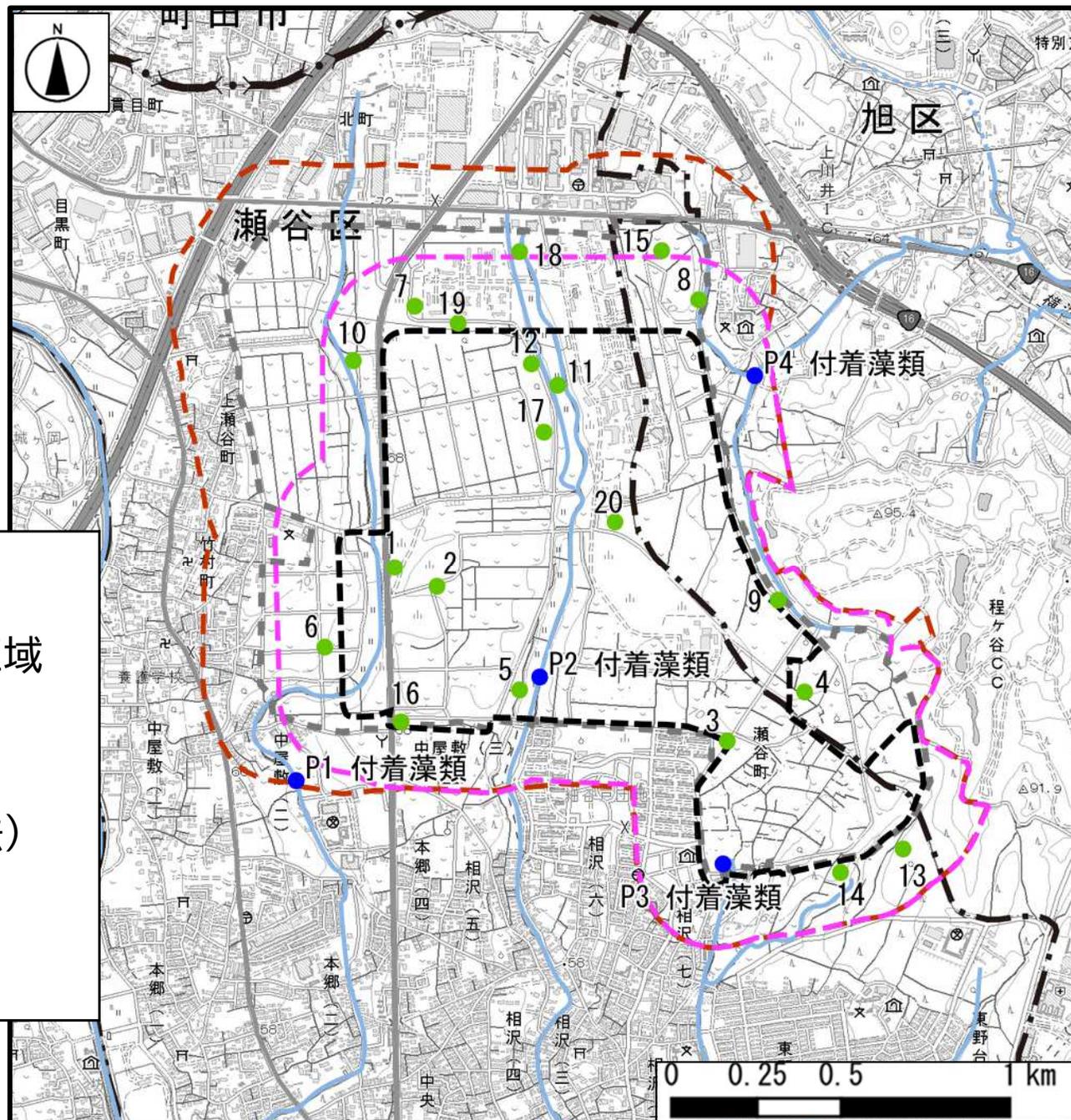
調査項目 <sup>注</sup>	調査方法
<p>植物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植物相</li> <li>・ 植生</li> <li>・ 注目すべき植物種及び植物群落の状況</li> </ul>	<p>土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果と、公園整備事業方法書の審査で提出された補足資料を収集・整理</p> <p>陸生植物</p> <p>a. 植物相調査 任意観察法、任意採集法、大径木調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 維管束植物は4季（夏季、秋季、早春季、春季）</li> <li>・ 蘚苔類は2季（秋季、初夏季）</li> </ul> <p>b. 植生調査 コドラート法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2季（夏季、春季）</li> </ul> <p>水生植物</p> <p>a. 付着藻類調査 任意観察法及び定量採取法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4季（夏季、秋季、冬季、春季）</li> </ul> <p style="text-align: center;">資料</p>

注：主な調査項目を記載

## ②-2 生物多样性(植物)

修正届出書添付資料 p.5-31

### ■ 調査地域・地点



### ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>工事の実施（または仮設施設等の撤去）に伴う植物相の変化の内容及びその程度</p>	<p><b>【地域・地点】</b>            対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p><b>【時期】</b>            工事期間全体（または仮設施設等の撤去中）</p>	<p>調査で把握した植物相及び植生の状況と<b>会場等の施工計画</b>（または<b>仮設施設や駐車場等の撤去に係る計画</b>）を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生育環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測</p>

## ②-2 生物多様性(植物)

修正届出書添付資料 p.5-27

### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
会場施設等の存在に伴う植物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲 (舗装地等人工改変地を除く)</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した植物相及び植生の状況と会場等の施設計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生育環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測。なお、植物に及ぼす影響を予測、評価する際は、 <u>駐車場・バスターミナル等設置検討エリアにおける駐車場の形状や土地被覆の性状を踏まえる。</u>

### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>夜間照明等の使用に伴う植物相の変化の内容及びその程度</p>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲 (舗装地等人工改変地を除く)</p>	<p>調査で把握した植物相及び植生の状況と行催事実施時の夜間照明の諸元をもとに、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測</p>
<p>外来植物を含む植栽等の管理に伴う植物相の変化の内容及びその程度</p>	<p>【時期】 開催期間全体</p>	<p>調査で把握した植物相及び植生の状況と植栽管理の計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生育環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測</p>

### ■ 調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
生態系の状況 ・生態系を構成する要素の状況 ・食物連鎖の状況	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている動物の状況及び植物の状況の調査結果により、生態系の状況を把握

注：主な調査項目を記載

### ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施（または仮設施設等の撤去）に伴う生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】                      対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】                      工事期間全体（または仮設施設等の撤去中）</p>	調査で把握した生態系の状況と <b>会場等の</b> 施工計画（または仮設施設や <b>駐車場等の</b> 撤去に係る計画）を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測

### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>会場施設等の存在に伴う生態系の変化の内容及びその程度</p>	<p><b>【地域・地点】</b>                      対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p><b>【時期】</b>                      開催期間全体</p>	<p>調査で把握した生態系の状況と会場等の施設計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測。<u>なお、生態系に及ぼす影響を予測、評価する際は、駐車場・バスターミナル等設置検討エリアにおける駐車場の形状や土地被覆の性状を踏まえる。</u></p>

### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
音響施設及び夜間照明等の使用に伴う生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 音響施設及び夜間照明等の使用は行催事実施時</p>	調査で把握した生態系の状況と行催事実施時の騒音発生源の音圧レベル、夜間照明の諸元をもとに、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測
海外から搬入した植物の展示植栽による動物の誘引、在来植物との交雑等による生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した生態系の状況と植栽管理の計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測

### ③水循環(湧水の流量、河川の流量)

#### ■調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
水循環の状況 ・湧水の分布、流量及び水質	資料	土地区画整理事業評価書、公園整備事業方法書で実施されている又は実施が予定されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 容器法にて湧水量又は流量を測定、水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導度（EC）を測定 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）（土地区画整理事業） ・4回（四季）（公園整備事業）
水循環の状況 ・河川の形態、流量の状況	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 「水質調査方法」（昭和46年環水管第30号）に定められた方法に基づいて河川の流量を測定 ・平常時：2回（渇水期、豊水期） ・降雨時：2回

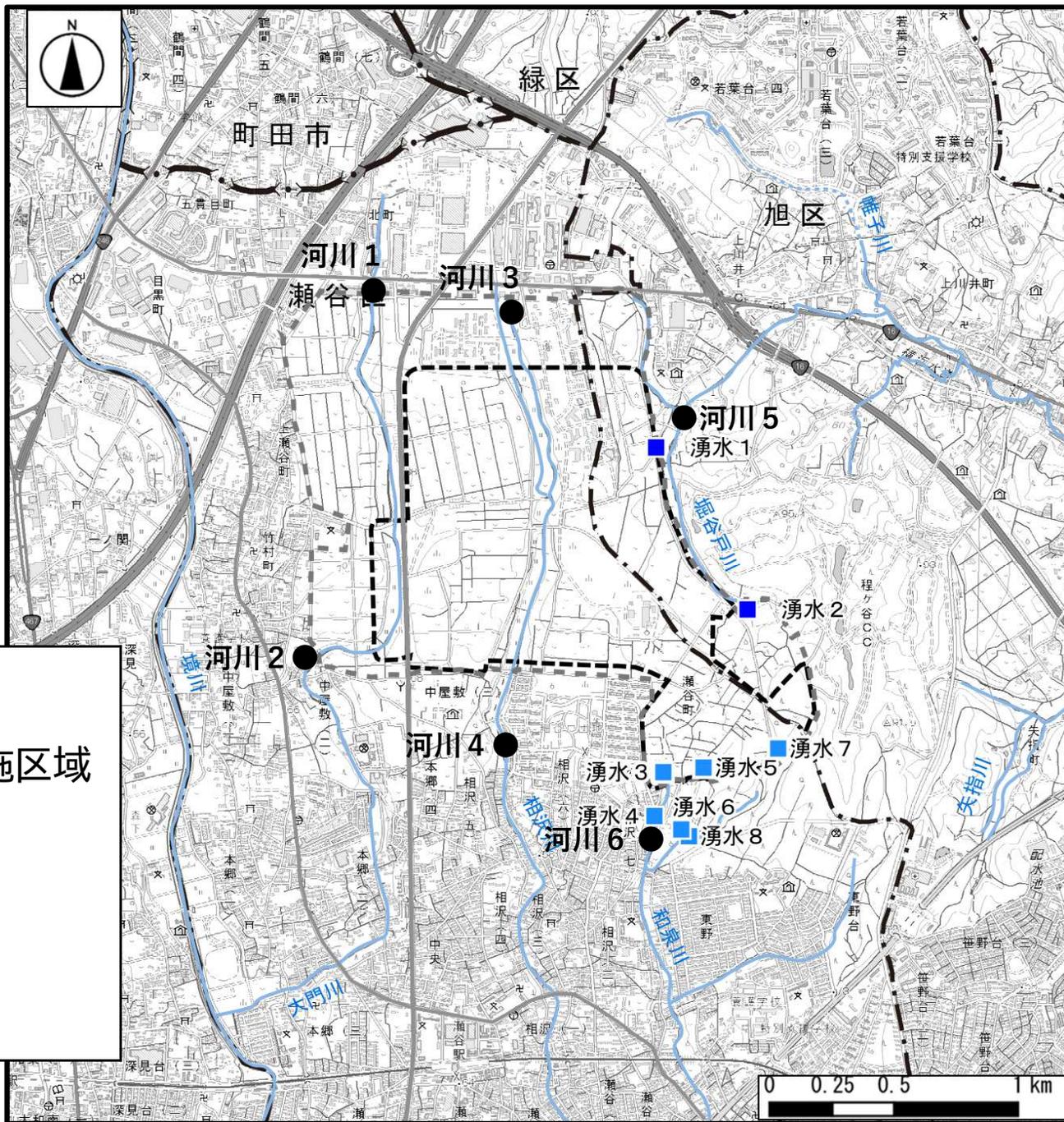
注：主な調査項目を記載

# ③水循環(湧水の流量、河川の流量)

修正届出書添付資料 p.5-41, .5-45

## ■調査地点

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  1～2湧水調査地点  
(土地区画整理事業)
-  3～9湧水調査地点  
(公園整備事業：予定)
-  河川調査地点



### ③水循環(湧水の流量)

#### ■予測手法(工事中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う湧水の流量の変化の内容及びその程度	<b>【地域・地点】</b> 現地調査の範囲と同一の地域・地点 <b>【時期】</b> 工事期間全体	調査で把握した湧水の状況と施工計画を比較することで、湧水の直接改変の程度及び流量への影響の程度を定性的に予測

#### ■予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
集水域の土地利用の変更に伴う湧水の流量の変化の内容及びその程度	<b>【地域・地点】</b> 現地調査の範囲と同一の地域・地点 <b>【時期】</b> 開催期間全体	調査で把握した湧水の状況と事業計画を比較することで、湧水の流量への影響の程度を定性的に予測

### ③水循環(河川の流量)

#### ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>開催中の植栽等の管理に伴う河川の流量の変化の内容及びその程度</p>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域の下流側 4地点 (河川2、4、5、6)</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	<p>調査で把握した河川の状況と事業計画を比較することで、河川の流量への影響の程度を定性的に予測</p>
<p><u>集水域の土地利用の変更に伴う河川の流量の変化の内容及びその程度</u></p>	<p><u>上流部の集水域に対象事業実施区域が含まれる河川のうち、堀谷戸川を対象とします。</u></p>	<p><u>現況及び開催中における雨水の地下浸透に寄与する土地利用面積を比較することで、河川の流量への影響の程度を定性的に予測します。</u></p>

## ■ 調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
廃棄物及び建設発生土の 処理処分の状況  ・ 種類別発生量 ・ 資源化の状況 ・ 廃棄物の処理状況	資料	横浜市における廃棄物の処理状況等を、既存 資料から収集・整理

注：主な調査項目を記載

## ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>建設行為等の実施（または仮設施設等の撤去）に伴い発生する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般廃棄物</li> <li>・ 産業廃棄物</li> </ul> <p>の内容及びその程度</p>	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域</p> <p>【時期】 工事期間（または撤去工事期間）全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工計画（または仮設施設等の撤去に係る計画）を基に発生量を推定</li> <li>・ 本博覧会で実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量と最終処分量を予測</li> </ul>

## ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
施設の供用に伴い発生する ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 の内容及びその程度	<b>【地域・地点】</b> 対象事業実施区域  <b>【時期】</b> 開催期間全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画を基に発生量を推定</li> <li>・本博覧会で実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量と最終処分量を予測</li> </ul>
植栽の管理に伴い発生する ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 の内容及びその程度		

## ■調査手法

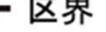
調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
大気質の状況 ・窒素酸化物 ・浮遊粒子状物質	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果、及び近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理 「二酸化窒素に係る環境基準について」等に定める方法 ・7日間×24時間×4季
気象の状況 ・風向、風速 ・日射量 ・放射収支量	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果、及び近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理 風向・風速：「地上気象観測指針」に定める方法 日射量、放射収支量：日射計、放射収支計を設置 ・7日間×24時間×4季
大気汚染物質の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果、及び既存資料を収集・整理 自動車断面交通量 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

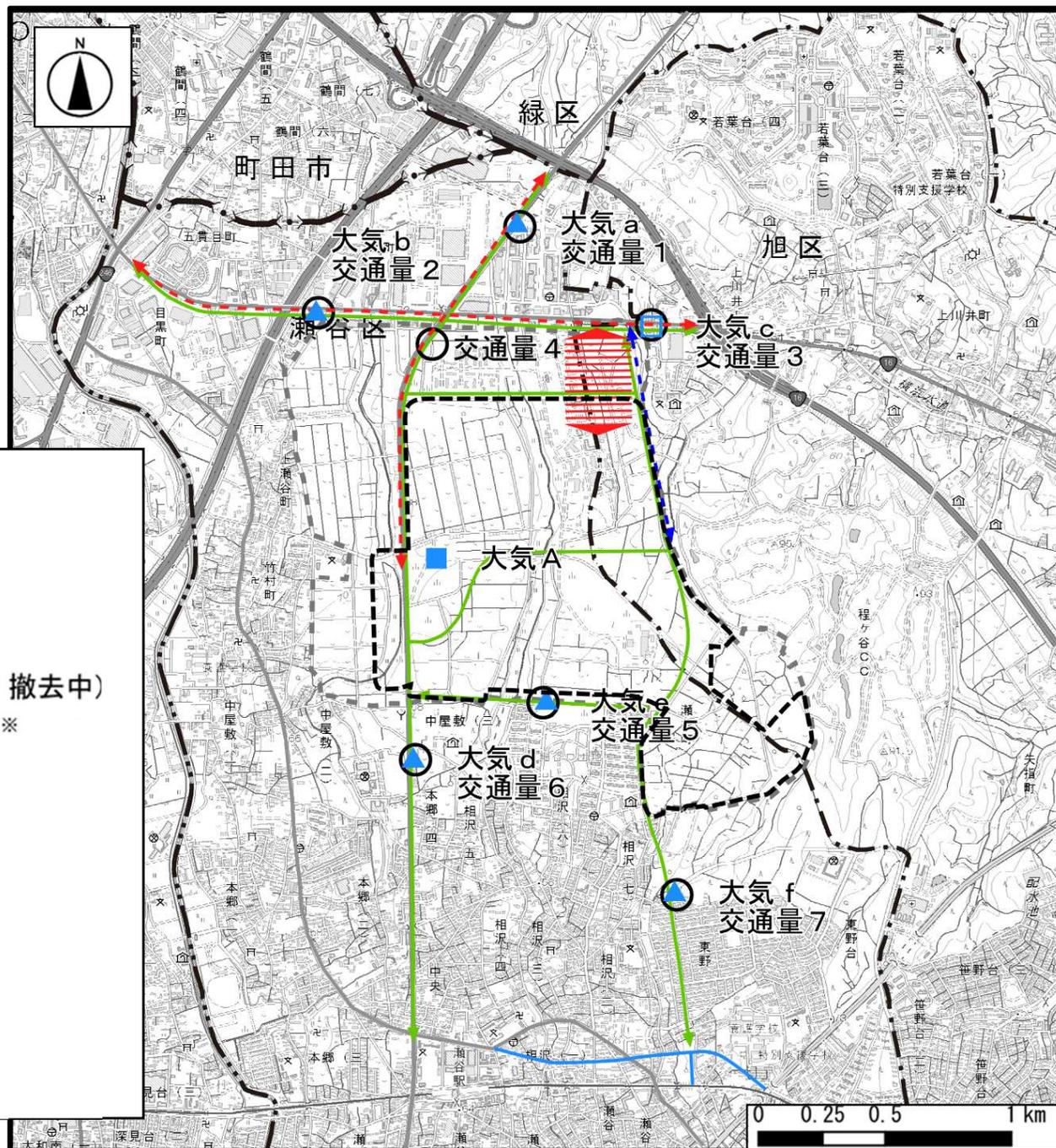
注：主な調査項目を記載

# ⑤大気質

## 調査地点

※工事用車両の専用出入口の詳細な位置・線形については、現時点で未定。

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  都県界  市界  区界
-  工事用車両の走行ルート（工事中・撤去中）
-  工事用車両の専用出入口（工事中）※
-  工事用車両の走行ルート（撤去中）
-  関係車両走行ルート（開催中）
-  整備計画中の道路
-  沿道大気（公定法・簡易法）
-  一般大気（公定法）、地上気象
-  沿道大気（簡易法）
-  交通量



## ■予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	<b>【地域・地点】</b> 最大着地濃度の出現する地点を含む範囲  <b>【時期】</b> 建設機械の稼働による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に示されている大気拡散式により、年平均値、日平均値及び1時間値を予測
工事用車両の走行に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	<b>【地域・地点】</b> 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点(交通量1~4)  <b>【時期】</b> 工事用車両の走行による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に示されている大気拡散式により、年平均値、日平均値及び1時間値を予測

## ■予測手法(開催中)

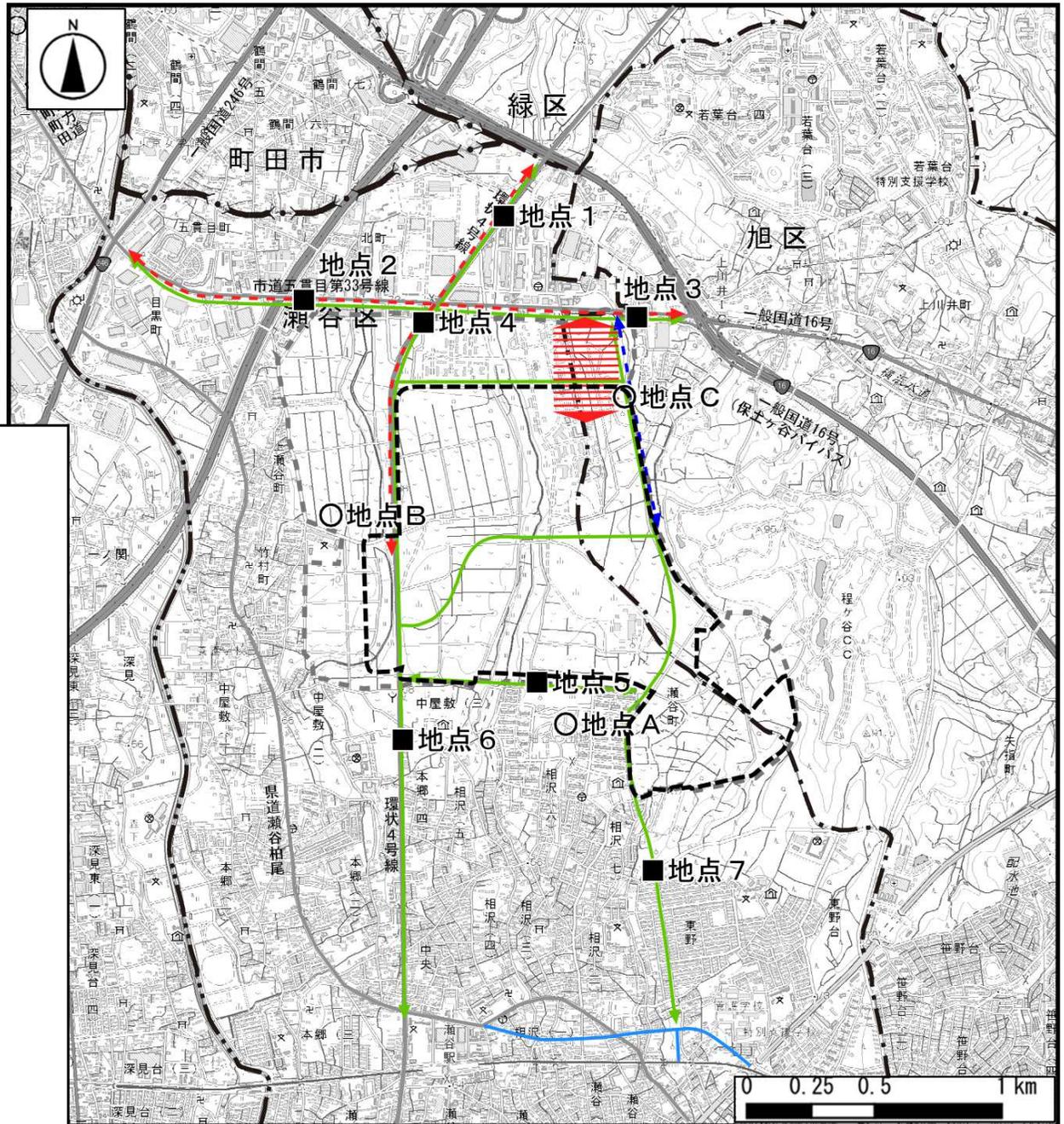
予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	<b>【地域・地点】</b> 関係車両の走行ルートとして想定される道路沿道の7地点（交通量1～7）  <b>【時期】</b> 開催期間の利用ピーク時	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値、日平均値及び1時間値を予測

## ■調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
騒音の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境騒音</li> <li>・道路交通騒音</li> </ul>	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理  「騒音に係る環境基準について」に定める「環境騒音の表示・測定方法」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・測定高さ：地上1.2m</li> <li>・平日（24時間）×1回</li> <li>・休日（24時間）×1回</li> </ul>
騒音の主要な発生源の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要発生源の状況</li> <li>・自動車交通量等の状況</li> </ul>	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果、及び既存資料を収集・整理  自動車断面交通量 車種別方向別交通量を現地計測 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日（24時間）×1回</li> <li>・休日（24時間）×1回</li> </ul>

注：主な調査項目を記載

## 調査地点



	対象事業実施区域
	土地区画整理事業実施区域
	工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
	工事用車両の専用出入口 (工事中)
	工事用車両の走行ルート (撤去中)
	関係車両走行ルート
	一般環境騒音
	道路交通騒音、断面交通量
	整備計画中の道路

## ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う騒音	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域の敷地境界から100mの範囲 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に示されている「ASJ CN Model」により予測
工事用車両の走行に伴う騒音	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点(交通量1~4) 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期</p>	「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN Model)」を用い、現況の騒音レベルに工事用車両の影響を加味することで予測

## ■予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
行催事における音響施設の使用に伴う騒音	<p><b>【地域・地点】</b> 催事施設に最寄りの住宅等の保全対象、その近傍の敷地境界 予測高さは地上1.2m</p> <p><b>【時期】</b> 開催期間の行催事開催時</p>	<p>「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている 「ASJ CN Model」により予測</p>
関係車両の走行に伴う騒音	<p><b>【地域・地点】</b> 関係車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道7地点（地点1～7） 予測高さは地上1.2m</p> <p><b>【時期】</b> 開催期間の利用ピーク時</p>	<p>「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN Model)」を用い、現況の騒音レベルに関係車両の影響を加味することで予測</p>

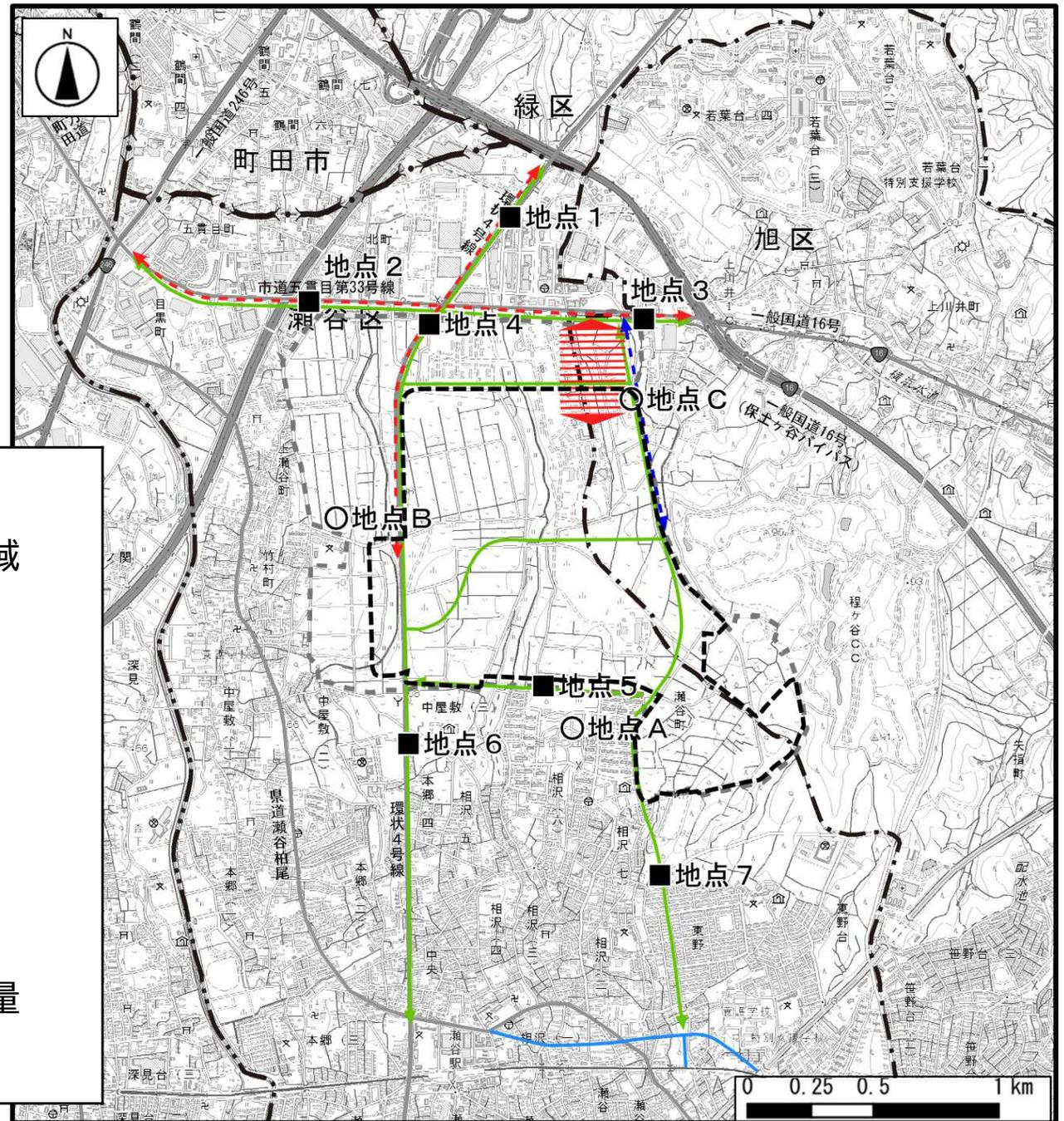
## ■調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
振動の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般環境振動</li> <li>・道路交通振動</li> </ul>	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理  一般環境振動：「振動レベル測定方法」に準拠 道路交通振動：「振動規制法施行規則」に準拠 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日（24時間）×1回</li> <li>・休日（24時間）×1回</li> </ul>
地盤の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤卓越振動</li> </ul>	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理  「道路環境影響評価の技術手法」に準拠 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型車の単独走行時10回</li> </ul>
振動の主要な発生源の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要発生源の状況</li> <li>・自動車交通量等の状況</li> </ul>	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果、及び既存資料を収集・整理 自動車断面交通量、車種別方向別交通量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日（24時間）×1回</li> <li>・休日（24時間）×1回</li> </ul>

注：主な調査項目を記載

## 調査地点

	対象事業実施区域
	土地区画整理事業実施区域
	工事用車両の走行ルート (工事中・撤去中)
	工事用車両の専用出入口 (工事中)
	工事用車両の走行ルート (撤去中)
	関係車両走行ルート
	一般環境振動
	道路交通振動、断面交通量
	整備計画中の道路



## ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う振動	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域の敷地境界から100mの範囲</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に示されている伝搬理論に基づく予測式により予測
工事用車両の走行に伴う交通振動	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点(交通量1~4)</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」に示されている「振動レベルの八十パーセントレンジの上端値を予測するための式」を用い、現況の振動レベルに工事用車両の影響を加味することで予測

## ■予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>関係車両の走行に伴う交通振動</p>	<p><b>【地域・地点】</b>                      関係車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道7地点（地点1～7）</p> <p><b>【時期】</b>                      開催期間の利用ピーク時</p>	<p>「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている「振動レベルの八十パーセントレンジの上端値を予測するための式」を用い、現況の振動レベルに関係車両の影響を加味することで予測</p>

## ⑧地域社会(交通混雑、歩行者の安全)

修正届出書添付資料 p.5-75

### ■調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
日常生活圏等の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設等の位置</li> <li>・ 学区、通学路の状況</li> <li>・ 避難場所等の状況</li> </ul>	資料	既存資料を収集・整理
地域交通の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な交通経路及び交通量の状況</li> <li>・ 主要交差点部における交通処理</li> <li>・ 交通安全対策の状況</li> <li>・ 交通事故の発生状況</li> </ul>	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査(以下)の結果、及び既存資料を収集・整理 工事用車両、関係車両の走行ルートとして想定される主要6交差点及び1断面において、車種別・方向別・時間帯別の自動車交通量、渋滞の状況及び信号現示を把握 交差点における交差点形状等を把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日(24時間) × 1回</li> <li>・ 休日(24時間) × 1回</li> <li>・ 混雑時(24時間) × 1回</li> </ul>

注：主な調査項目を記載

## ■調査手法

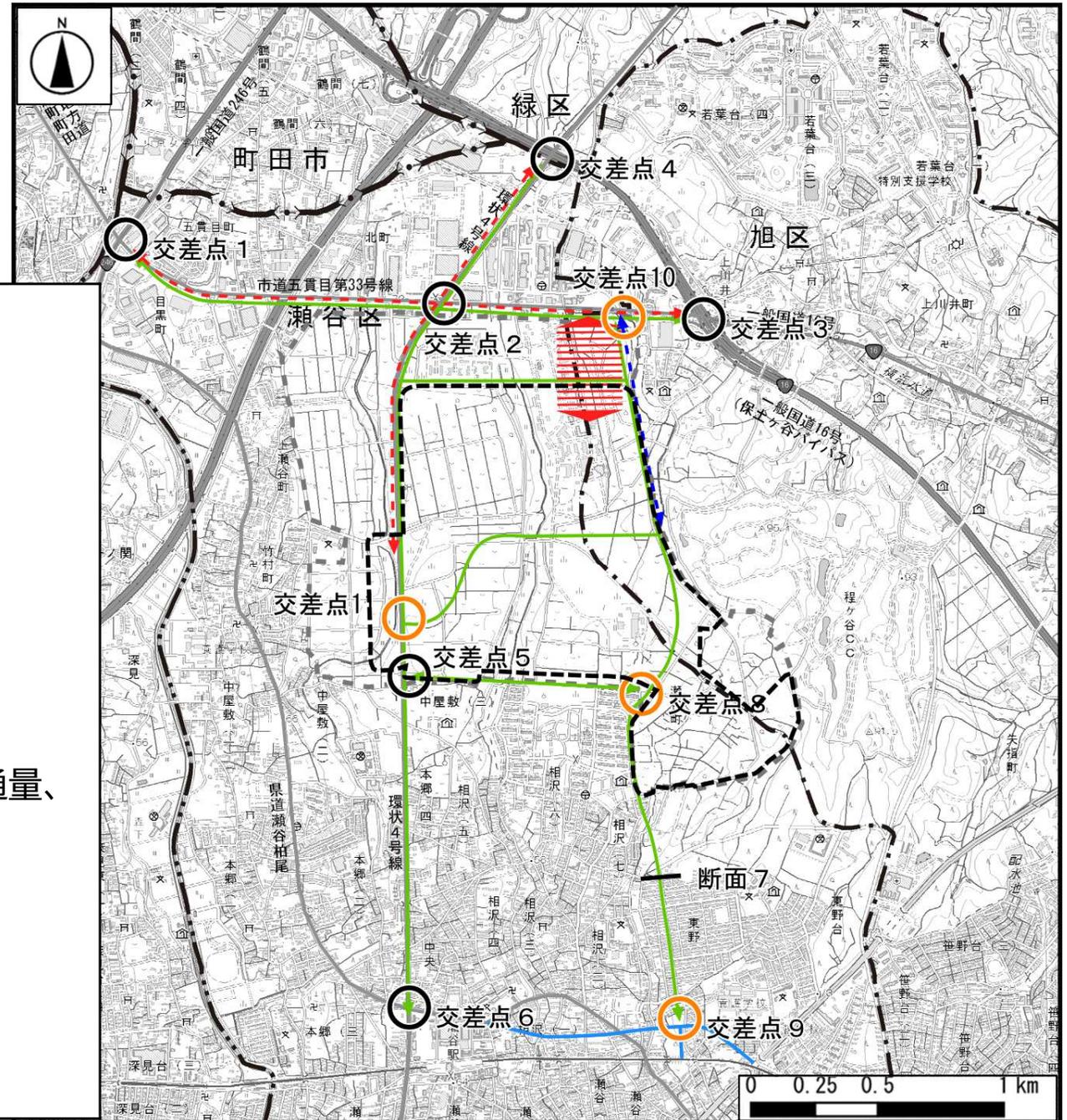
調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
歩行者の状況 ・ 主要な通行経路、 歩行者数、 歩行空間の幅員等	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査(以下)の結果、及び既存資料を収集・整理 工事用車両、関係車両の走行ルートとして想定される主要6交差点及び1断面において、歩行者自動車別・方向別・時間帯別の歩行者・自転車交通量を把握 歩行空間の幅員等を把握 ・ 平日(24時間) × 1回 ・ 休日(24時間) × 1回 ・ 混雑時(24時間) × 1回

注：主な調査項目を記載

# ⑧地域社会(交通混雑、歩行者の安全)

## 調査地点

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  工事用車両の走行ルート  
(工事中・撤去中)
-  工事用車両の専用出入口  
(工事中)
-  工事用車両の走行ルート  
(撤去中)
-  関係車両走行ルート
-  調査・予測地点 (自動車交通量、  
交通混雑、歩行者の安全)
-  予測地点 (自動車交通量、  
交通混雑、歩行者の安全)
-  調査・予測地点  
(自動車断面交通量)
-  整備計画中の道路



## ⑧地域社会(交通混雑、歩行者の安全)

修正届出書添付資料 p.5-77

### ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>工事中の歩行者・ 自転車の安全</p>	<p>【地域・地点】 工事中の歩行者・自転車の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点(交通量1~4)</p> <p>【時期】 工事中の歩行者・自転車の走行台数が最大となる時期</p>	<p>現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況と、本博覧会で実施する安全対策等を整理整理することで定性的に予測</p>
<p>工事中の歩行者・ 自転車の安全</p>	<p>【地域・地点】 工事中の歩行者・自転車の走行が想定される主要交差点、ルート、施工ヤード周辺</p> <p>【時期】 工事中の歩行者・自転車の走行台数が最大となる時期</p>	<p>交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を予測</p>

## ⑧地域社会(交通混雑、歩行者の安全)

修正届出書添付資料 p.5-77

### ■予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う交通混雑(自動車)の程度	<p>【地域・地点】 関係車両の走行ルートとして想定される主要10交差点(交通量1~6、8~11)及び1断面(断面7) ※1</p> <p>【時期】 開催期間の利用ピーク時</p>	交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を予測
関係車両の走行に伴う歩行者・自転車の安全	<p>【地域・地点】 関係車両の走行が予想される主要交差点、ルート ※2</p> <p>【時期】 開催期間の利用ピーク時</p>	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況と、 <u>歩行者等の横断方法</u> や本博覧会で実施する安全対策等を整理することで定性的に予測

※1 パークアンドライド駐車場として想定される地点の周辺の主要交差点についても追加で選定します。

※2 鉄道からシャトルバスへの乗換えを行う結節点として想定される地点についても追加で選定します。

## ■調査手法

調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
地域景観の特性	資料	既存資料を収集・整理
主要な景観資源の特性		
主要な眺望地点の利用状況及び眺望景観の状況	資料 ・ 現地	<p>土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理</p> <p>&lt;主要な眺望景観、圍繞景観の状況&gt;</p> <p>→写真撮影及び目視確認による情報の収集、整理、解析</p>
		<p>公園整備事業方法書で実施が予定されている現地調査（以下）の結果を収集・整理</p> <p>&lt;主要な眺望地点からの景観&gt;</p> <p>→現地調査（写真撮影）により把握</p>
		<p><b>上記2資料の調査地点以外であって、本博覧会の景観影響を把握する上で必要な地点については、現地踏査を行い、写真撮影により主要な眺望景観及び圍繞景観を把握</b></p>

注：主な調査項目を記載

## 調査地点

対象事業実施区域周辺で不特定多数の人の利用頻度や滞留度が高い場所等として公園、歩道等の33地点とします。

土地区画整理事業：

地点1～20、25、32

公園整備事業：

地点21～24、26～29

本博覧会の現地調査：

地点30, 31, 33

 対象事業実施区域

 土地区画整理事業実施区域

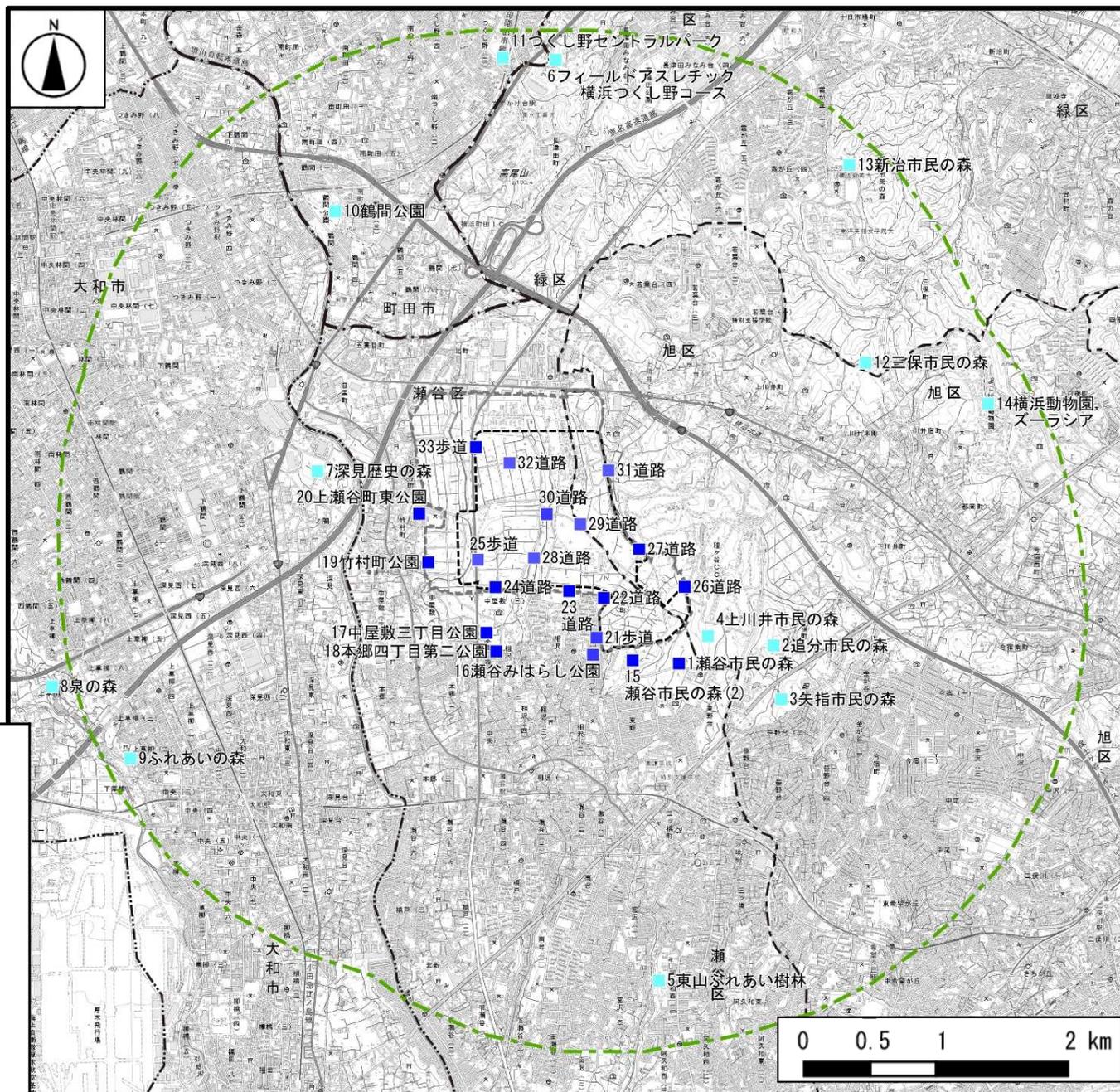
 主要な眺望地点

 主要な眺望地点

(会場を視認できない)

 対象事業実施区域から3kmの範囲

 主な圍繞景観の構成要素



## ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<p>施設の有無により変化する景観の状況</p>	<p>【地域・地点】 現地調査地点のうち、対象事業実施区域を視認可能な地点</p> <p>【時期】 開催期間</p>	<p>眺望地点からのフォトモンタージュを作成し、眺望景観の変化の程度を定性的に予測</p> <p><u>対象事業実施区域を景観構成要素に基づき複数の景観区に区分し、対象事業実施区域内及び近景域の調査地点から各景観区を代表する地点を選定し、</u> 圍繞景観の変化の程度を定性的に予測</p>

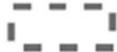
## ■調査手法

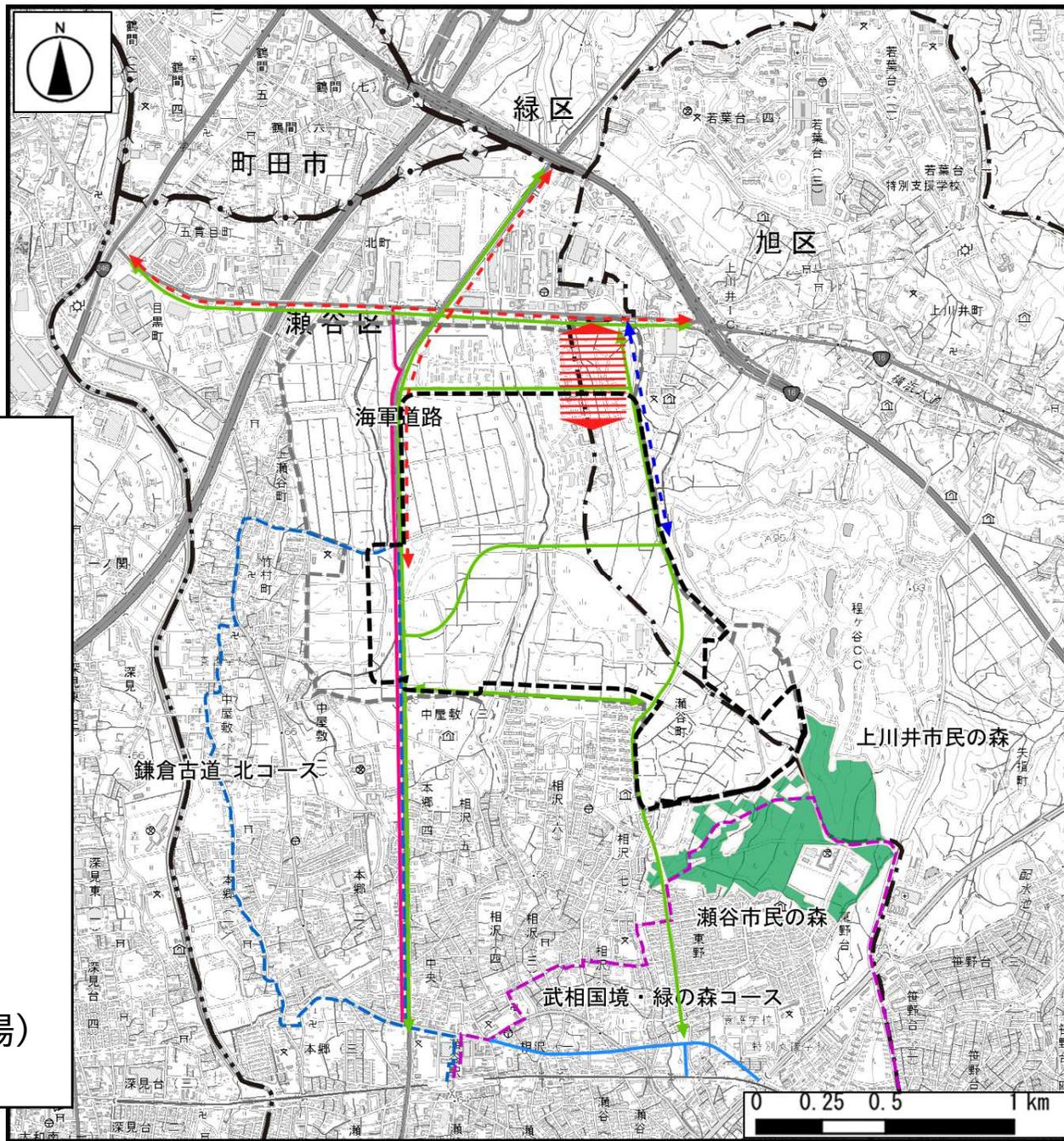
調査項目 <sup>注</sup>	調査方法	
触れ合い活動の場の名称、位置、規模、区域及び分布状況等	資料	既存資料を収集・整理
触れ合い活動の場までの経路、交通手段		
触れ合い活動の場の活動特性、利用状況等	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理  利用者が多い時期の状況について 現地踏査及び聞き取り調査

注：主な調査項目を記載

# ⑩触れ合い活動の場

## 調査地点

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  工事用車両の走行ルート  
(工事中・撤去中)
-  工事用車両の専用出入口  
(工事中)
-  工事用車両の走行ルート  
(撤去中)
-  関係車両走行ルート
-  整備計画中の道路
-  調査地点 (触れ合い活動の場)



## ■ 予測手法(工事中・撤去中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事用車両の走行に伴う主要な触れ合い活動の場への影響の内容及びその程度	<p>【地域・地点】                      現地調査地点と同一の地点</p> <p>【時期】                      工事期間（仮設施設撤去工事期間）                      全体</p>	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と施工計画（仮設施設等の撤去に係る計画）を比較

## ■ 予測手法(開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う主要な触れ合い活動の場への影響の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 現地調査地点と同一の地点</p>	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と交通計画等を比較
行催事の実施等に伴う主要な触れ合い活動の場への影響の内容及びその程度	<p>【時期】 工事期間（仮設施設撤去工事期間）全体</p>	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と事業計画を比較

- ・ 下記の環境要素については、本事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮し、影響を予測

環境影響評価項目	細目
大気質	大気汚染
騒音	騒音
振動	振動
地域社会	交通混雑/歩行者の安全
景観	景観
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場

環境の保全等に関して、

- ・ 横浜市の計画及び指針等の中で設定している目標
- ・ 法令等で定められている基準
- ・ 環境に著しい影響を及ぼさない水準 …等を踏まえ

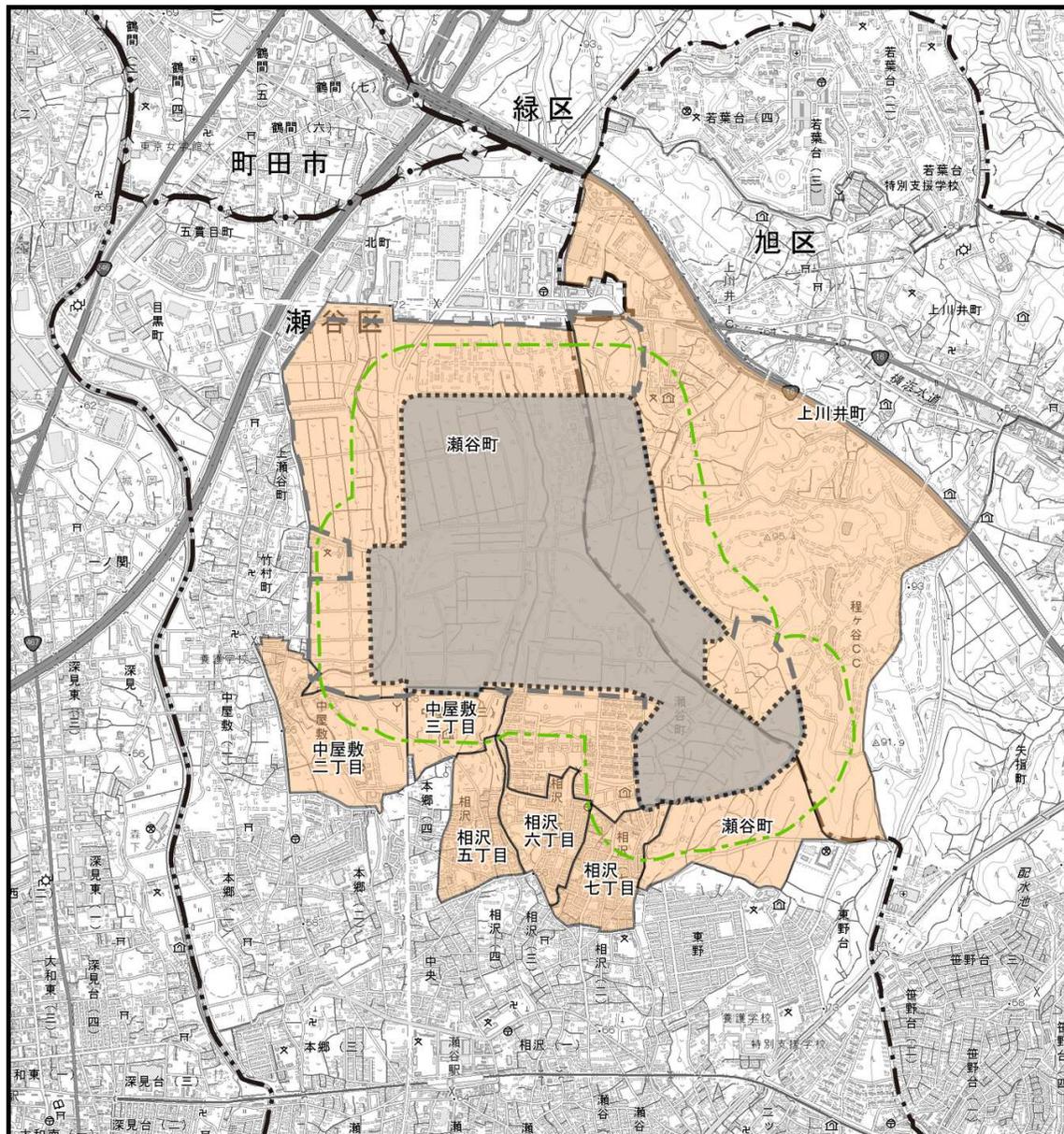


「環境保全目標」を設定

「環境保全目標」と予測結果と対比することにより評価

結果等については、今後作成・公表する準備書にてお示しします。

# 7 方法書対象地域



区名	町丁名	周知地域
旭区	上川井町	一部地域
瀬谷区	瀬谷町	全域
	中屋敷二丁目	全域
	中屋敷三丁目	全域
	相沢五丁目	全域
	相沢六丁目	全域
	相沢七丁目	全域

**凡例**

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  都県界  市界  区界
-  対象事業実施区域から約200m圏
-  方法書対象地域

## 8 図書の見覧及び意見書の提出

# 方法書修正届出書添付資料の閲覧

## 【期間】

ホームページ公開から30日間  
(令和5年4月5日まで)

## 【場所】

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会  
※午前8時45分から午後5時30分まで  
※土・日・祝日を除く

## 【ウェブでの公開】

- ①本協会ホームページ
  - ②横浜市ホームページ（環境影響評価課）
- ※②は横浜市環境影響評価審査会後に掲載予定

# 意見書の提出

## 【提出期限】

令和5年4月5日まで

（窓口での受付は土・日・祝日を除く）

## 【提出方法】

本協会ホームページ掲載の意見書用紙にご記入の上、協会（環境課）までメールにて提出してください。

（プリントアウトの上、持参、郵送も可）

ご清聴ありがとうございました